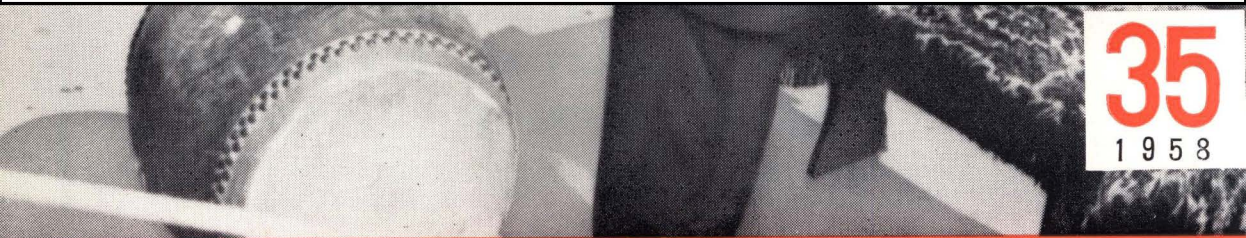
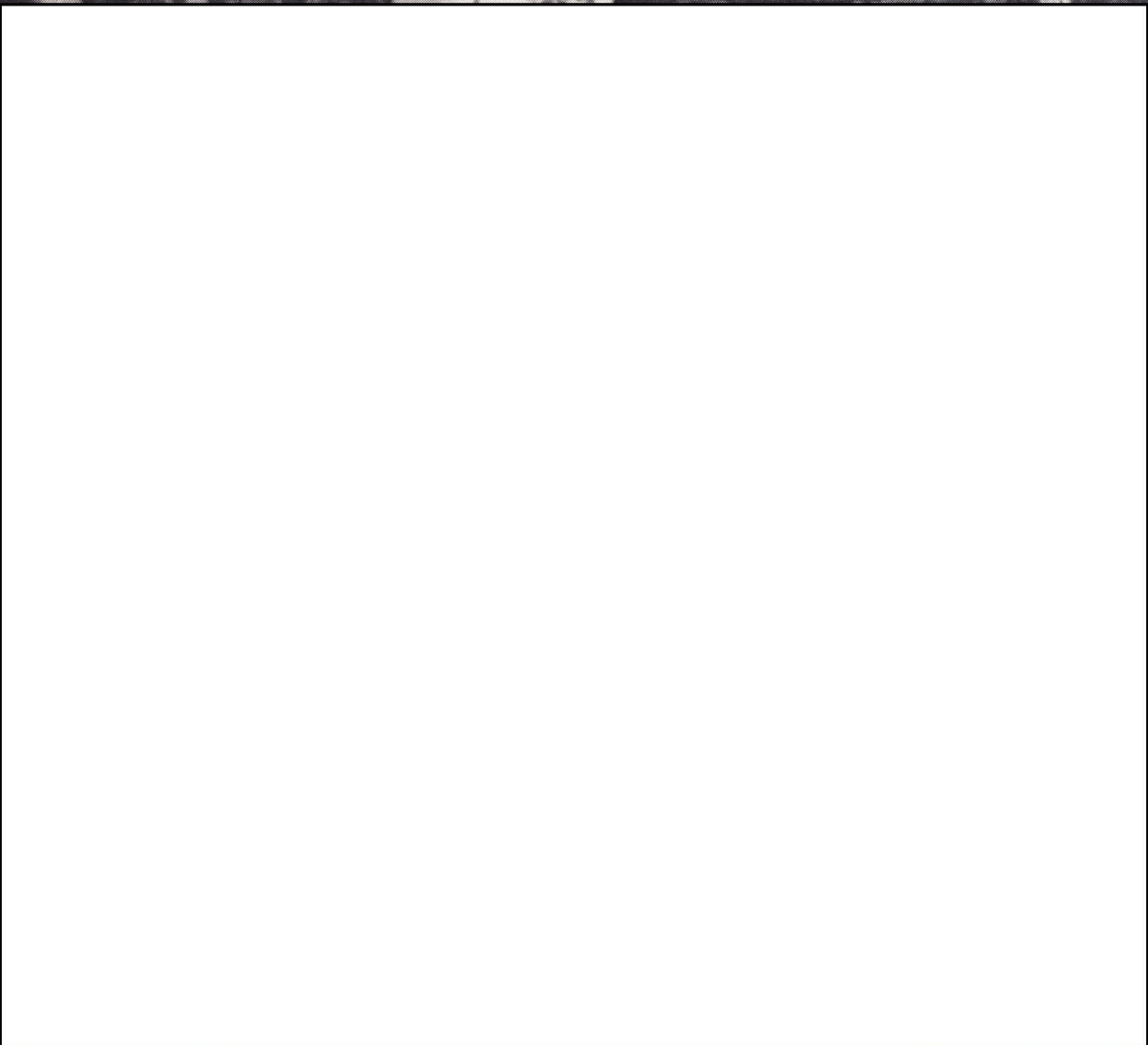


豫防時報



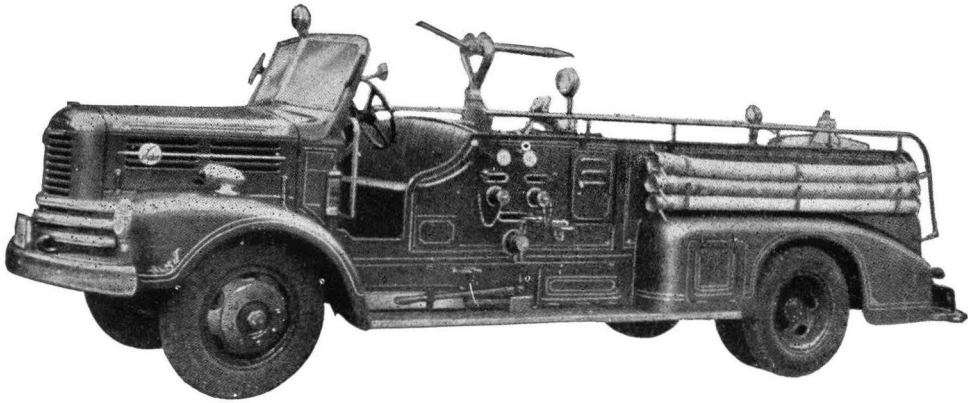
35
1958



広く海外からも愛用されている

森田式消防ポンプ

最も古い歴史・最も使ひ良いポンプ



国家消防本部 検 定 合 格
日本損害保険協会 殿御用命



各種消防ポンプ 専門
型 録 贈 呈

森田唧筒工業株式會社

大阪市生野区腹見町 電話 天王寺 8451-4

東 京 営 業 所

東京都千代田区神田松住町四 電話 25-5021-2

出 張 所

仙 台 ・ 名 古 屋 ・ 広 島 ・ 福 岡



昭和24年2月20日

午前0時35分，秋田県能代市

清助町新道52番地より出火。

市街地の約42%を焼失して午前8時40分頃漸く鎮火した。

焼失坪数 67.527坪，罹災戸数 1.716戸（約15）

罹災人員 8.797人，死者 3名，重傷 15名，軽傷 250名

損害額 4.725.000.000円，原因 ストーブ残火の不始末。



信頼の出来る 使いやすい 能率のよい

いちほらポンプ



市原の主義と信条

1 一番安心の出来るポンプ

国 検

..... 良質持久

2 一番使いやすいポンプ

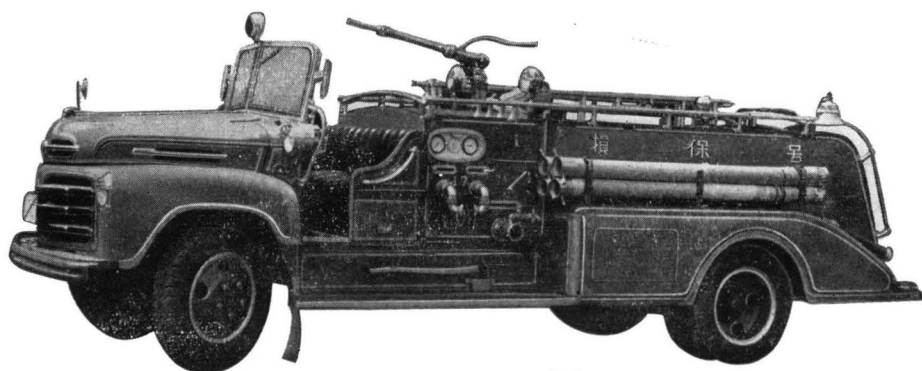
..... 取扱簡易

3 一番進歩したポンプ

..... 不断研究

A-1級合格

損害保険協会殿御用命



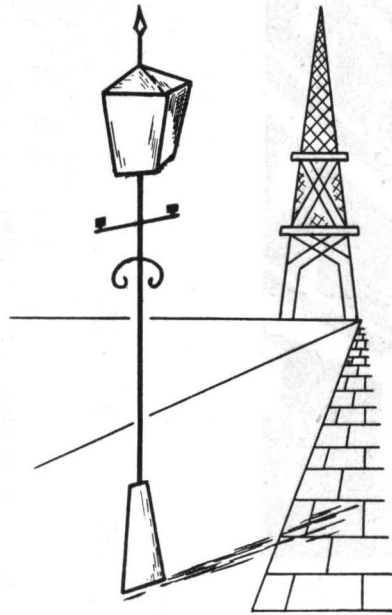
消防ポンプ専門メーカー

型録贈呈

会社 市原唧筒諸機械製作所

本社 東京都中央区日本橋蛸殻町三ノ十 (水天宮前) 電話兜町 (67)六三〇四・六三〇五番
工場 東京都大田区東蒲田四丁目三三番地ノ一 電話蒲田 (73)二四六八・五九四〇番

豫防時報



鉄筋アパートの火災経験 鈴木博……2
 すべてを

フルプルーフに 松沢春雄……8

水害予防の諸問題・1 矢野勝正……12

日本に於ける近代消防の特性と其の隘路 荒木雄一……6

PR映画シナリオ

懸賞募集当選発表

……20

”町火消とけんか” 小鯖枯葉……16

アメリカ合衆国の森林火災の

消火について・2 井上桂……24

危険物火災

十ヶ年の歩み・2 清水忠雄……18

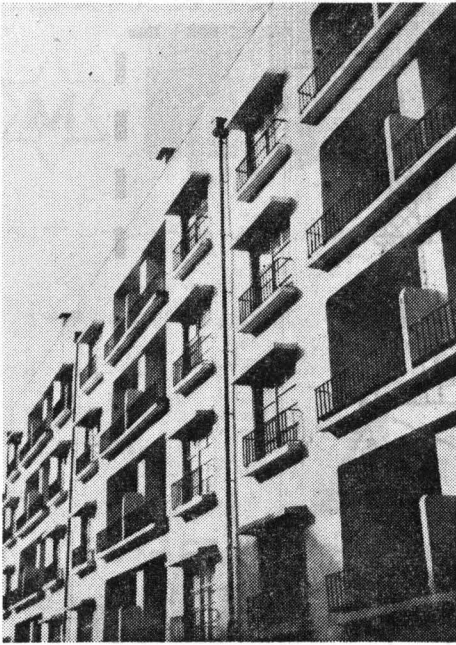
映画シナリオ
 入選作品 「まかぬ種は生えぬ」……28

社会面記事の一隅から 尾崎三郎……10

鉄筋

アパートの火災経験

鈴木博



「今日は」

「珍らしいね。まあ上れよ、今日は何んの用かね」

「いや別に用件という程の事ぢやないんだ。今日は朝から記事集めに歩いているんだがサツパリでね。近かくまで来たので寄らせて貰つただけさ。何かネタはないかね」

「ネタ？俺みたいな平凡なサラリーマンにネタなどあるわけはないさ」

「仲々いいアパートだな。風通しはいゝし夏は扇風機いらすだね。俺みたいな木造の古い家に住んでいる者は台風や火災の心配はあるし売つてアパート住いに転向するかな」

「贅沢を云うな。アパートは庭もなし殺風景すぎるよ。だが戦後鉄筋アパートが増えたね。狭い日本じや土地の値が高いから益々鉄筋アパートが増加するのも当然だね。火災予防の面から云えば結構な話だろうが」

「そうだね、然し此のアパートも三階だが四階以上というのは殆んどないね。もつと空間を利用して八階十階或は夫れ以上の高層アパートが出来てもいいと思ふんだが、なぜ出来ないのかね」

「余り高くちや万一火災の場合、日本の消防車じゃ困るからね」

「成る程、然しアメリカのエンパイヤステートビルなんか上層部で火災が発生したらどうするのかね。屋内消火栓が完備しているので充分というわけかね」

「恐らくそういう事だろうね。一度専門家に聞いてみるよ」

「それはそうと玄関の板の間に焼焦しがあつたがどうして出来た焦跡かね」

「あれか。あれには深いわけがあるんだ。余り人には云わんでほしいんだが鉄筋アパートでもこんな事で火災が起きるといい例だから他山の石として聞かせようか」

「是非話せよ、記事になるかも知れんからね」

「大体俺が此のアパートに住んで約六年になるんだが火災になりかけたのが五度、一度は玄関の傷跡がある奴で危く本物になりかけたんだ。参考になるかも知れないから全部話そう。」

第一回目は電気炬燵と電熱器の差込違いでね。死んだばあさんが居た頃の事だ。冬の寒い夜中、ばあさん便所に用足しの後炬燵がすつかり冷えていたもんだから寢床の脇の差込をうっかり間違えて電熱器の方をコン

セントに差込んで寝て仕舞つたとい
うわけさ。隣りで寝ていた家内がポ
ツという異様な音で目を覚まして見
ると床の間の角火鉢の上の絵本がメ
メラツと燃えているぢやないか。家
内は突差に火鉢を廊下に出し消火
して事なきを得たんだが中の電熱器
が真火になつていたそうだ。」

「両方の差込が一個所においてあつ
たというわけだ、矢張不注意の中
だね。」

「不注意には違いないが有り得るケ
ースだよ」

「二回目は電気スタンドが火元だつ
た。中学生の子供が試験勉強を寝床
の中でやつて枕元に電気スタンドを
持込んであつたわけだが何時の間に
かスタンドを消されて寝て仕舞つた

らしい。夜中に寝返りを打つた際ス
タンドが夜具に巻込まれて蒲団の中
に倒れ、それを知らずに寝ていたの
で電球が過熱、煙りで目を覚まし事
なきを得たというわけだ。蒲団上
下、毛布敷布に大きな焼焦しをした
程度の損害だつた。」

「夫迄よくその子は寝ていたね」
「熟睡した時は案外気がつかない様
だね。」

三回目は小生の失敗らしいんだが
ね。今座つているソファベットね、
ほらここの焼焦しの個所だ。夕方外
出から帰つてビールを一本飲んで
このベットでうたた寝をしたんだが
その際煙草を齧えた儘眠り込んだら
しいんだ。二十分位だつたと思うが、
家内が食事だと云うので目を覚して

「予防時報」発行の主旨について

戦前から世界有数の火災国として知られた我国は今日なお一日平均約一億
円に近い財貨を灰にしております。戦後我国損害保険会社は積極的に火災損
害の軽減を計り以つて疲弊した我国経済の自立と国力の回復推進の急務なる
事に着目し日本損害保険協会に災害予防部を新設、年々その火災収入保険料
の一部を醸出して全国諸都市への消防ポンプ車、火災報知機の寄贈、専門講
師の派遣による都市巡回防火講演会の開催、防火映画の作製、業態別工場防
火運動、各種防火資料、パンフレットの作製配布等を行つております。
本誌もかかる事業の一環として発行しているものであり、広く御活用願え
れば幸に存じます。

食膳の前に坐つたのだがどうも焦臭
いんだね、家内中で部屋を嗅いで廻
つたがわからぬ。が確かに焦臭い。
どうもソファのあたりだというわけ
でよくみるとカバーの皺の間に一セ
ンチ位の穴があいていて微かに煙り
が出ています。これが原因個所かと思
つて指でこすり消そうとしたら驚い
たね。カバーの焼個所はわずかだが
中の方はかなり焼けているんだ。早
速コップの水を三杯位流し込んでみ
たが仲々消火しないんだ。それから
薬缶から水を注ぎ込んで消したんだ
が知らずに全部が外出でもしていた
らと思つてゾツとしたよ。」

「焼口がそんなに小さくて中の方へ
燃焼するものかね。ソファに張つた
生地故もあるだろうね。色々経験
しているね、四回目はどんな事故だ
い。」

「四回目はよく鉢山なんかで工具
の衣類乾燥室で火災を出す奴と同じ
だ。だがこれは案外多いと思うよ。
冬の夕方頃だつたが雨が前日から降
り続いていたので洗濯物を部屋に麻
紐を張廻して干してあつたんだ。暖
房用の瓦斯ストーブが置いてあつた
のだが勿論干物からは離れた所にあ
つた。台所にいた家内が焦臭いので

部屋を覗くと瓦斯ストーブの上に子
供の寝巻が落ちて燃えている。直ぐ
傍が襦だつたから襦にでも移つてい
たら大事だつたね。この時は大分驚
いたよ。」

「どうして干物が落ちたのかな」
「小学二年のチビが部屋を出る時に
干物に触れて紐がはずれたらしいん
だね」

「この例など冬のアパート住いでは
やりそうだね。家人が居るから大事
にならずに済んでいる場合が多いだ
ろうが。愈々板の間焼焦しの段だね」
「この場合も冬の事で寒い日曜日の
事だつた。火事になつたりする場合
は色々な条件が重なる場合が多いが
この日も普通の場合なら火災などに
はならなかつたのだが生憎家内と上
の子供二人が早朝から外出中だつた
事が大事に至つた原因なんだよ。事
故当日の状況を話すところなんだ。」

小生は前日の土曜日遅く迄散歩して
十二時頃帰宅、当日は疲れてぐつす
り小原庄助をきめ込んでいるし、三
男坊は学期末の試験勉強で土曜日の
夜は徹夜して四時頃床について之又
ぐつすり、小学校二年のチビ一人で
起きていたというわけだ。九時頃だ
つたと思う、一度チビに起きたら

しいのだが前日の疲れで其儘寝入つて仕舞つたらしい。それから一時間位経つて十時頃だつた。チビの『お父さん火事だよ』という驚声にビツクリ跳起きたらどうだろう、寝床の横、窓側に置いてあつた買った許りの三点セツトの一個が炎を吹いて燃えているんだよ。驚いてねその時は。

その上寝ていた蒲団の裾の方とセツト側が燃えているじゃないか」

「そりやさぞ驚いたろうね、然し自分の夜具が燃えていて気がつかないとは随分ひどいもんじやないか、全くあきれよ」

「全くお恥かしき次第だが事実だから仕方がない。」

「それからどうした？」

「その時は突差の判断で手近かの毛布で先づ蒲団の裾、側の火を踏消し、別の掛蒲団で燃えているセツトを抱く様にして炎を揉み消し、玄関の板の間に運び出した。安物のセツトなので腰掛部分の裏側の藁屑がポロポロ落ちてね、仕末に困つたがね。早速手近かにあつた井でセツトの消火にかかつたが強力な消火器があればとツクヅク思つたね」

「ほんとだね、一般家庭まで消火器は普及していないよ。安くて効果の

ある消火器の出現を望み度いね。それからどうした？」

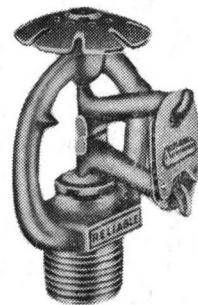
「セツトの消火に夢中になつていたらチビが、『お父さん又燃えているよ』という。部屋にとつて返えずともう一点のセツトが火を吹いていてアツと思う間に窓際の障子に燃え移つてメラメラツと燃え始めた。この時はしまつた!!と思つたが毛布で叩き消したらうまく消えたのでホツとした。直ぐ障子を引きあけて次の燃焼を防いでおいてセツトの消火にかかり炎を消すと直ぐこのセツトも玄関へ担ぎ出した。この時に漸く三男が隣りに寝ているのを思い出してチビに起こさせ、それから二人で消火に懸命になつたが、部屋中物凄い煙りで息苦しくなつたので台所の窓を少し許り開けたのだが煙りが出ると共に消えかけたセツトが又もや燃え始めたので苦しいのを辛棒して再び窓は閉めて仕舞つた。」

「獅子奮迅の活躍だね。」

「全くよく消火したと思うよ。夢我夢中だつたが面白い事に頭の中はどうして出火したのか?という疑問だけ一杯だつたね。消火に夢中になりながらチビに、どうしたのどうしたの何回か云つたのを覚えてい

RELIABLE

米国リライアブルスリックラ装置
屋内・屋外ハイドラント・ドレンチャー設備



リライアブル自動消火装置(損害保険料率算定会認定)ドレンチャー装置
消火栓設備・給排水・給湯其他配管設備全般(設計・施工・保守)

米国リライアブルオートマチックスリックラ-日本総代理店



株式
会社

西原衛生工業所

本社 東京都港区西芝浦3-1 電話三田(45)代表5281-(10)
工場 東京都大田区堤方町147 電話大森(76) 5778
大阪営業所 大阪市大淀区中津南通2-51 電話福島(45) 3416-8
(出張所) 札幌・仙台・新潟 (連絡所) 横浜・川崎

んだが何れにしても大分頭にきていた事は事実だね。」

「それで原因は何んだつたの？」

「うんそれなんだが一応後片づけをし、チビに聞いたんだがひどく叱かれそうだと思つたらしくて何も云わないんだ。部屋の状態をよく見てみると、隣室にある筈の電気スト

ブが蒲団の裾の方においてある。勿論スキツチは切つてあつたが之が原因の火元だとは想像がついたのでチビをなだめすかして聞いた所漸く出火の原因がわかつた。チビが起きるとおふくろ、兄貴二人は居らず、おや

じはグツスリというわけで隣室から電気ストーブを持出し、机を運んで勉強らしき事を始めたという。その際セルロイド製の定規を使つていた

のだが脇においてあつたストーブに定規が触れ、燃え始めたので驚いて窓から捨てようとしたがこの通り、窓の戸が開けにくいのですつかりあわてたらしく、手許に燃えてきて熱いのでパツと放り出したというわけ。

之が安物セットの下に飛んだからしばらくするとセットの裏側に燃え移り大事になつたというわけさ」「成程、然し今頃はセルロイド製の定規など殆んどないが大分以前の物が

間が悪るく家にあつたもんだね」

「之も合成樹脂製品ならこんな事にならずに済んでいたわけさ。早速家中のセルロイド製品を探し出し廃棄

処分にしたよ」

「貴重な火災経験だね、鉄筋アパートの火災について今後どういう点に注意したらいいか或る程度参考になつたがその外に気がついた事はないかね」

「色々あるが今迄の経験の中から思う事は誰れも火災には注意している筈だが火災は発生するという事、通常なら火災にならない状況が条件によつて大事になるという事だ。特に鉄筋アパートの場合着火し易い物と云えば障子と襖だと思うのでこの二つを防火紙製品を使用すれば大分火

災予防になると思うね。カーテンなども防火薬品溶液で加工したものを使用すれば良いと思う。前言の通り安価で有効な家庭消火器の普及も大事だと思う。」

「色々参考になつたが最悪の場合は防ぎきれないね」

「その場合の為にあるのが火災保険だよ。こりや我田引水になつたね。

済まん済まん」(完) (筆者は東京海上火災保険KK新宿営業所長)

速い通報少ない損害

感知器による発見

手動による消防署直結まで一貫!

設計 製作 工事 保守

営業種目

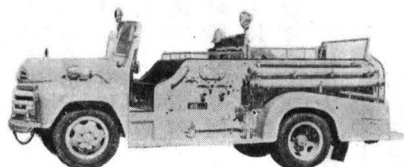
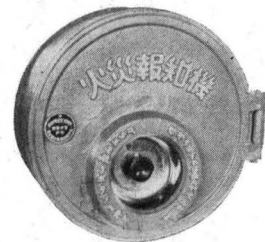
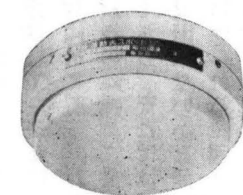
- M. M式消防署直通火災報知機
- バラ式補助火災報知機
- T. H式及D. S式自動火災報知機
- 警察署直通非常報知機
- 屋内信号表示装置
- トーホー式及ノーザン式消防囀筒
- トーホー式小型投光機
- M. K. U式流量計算盤 (水道、ガス、その他)

火災報知機

東京報知機株式会社

本社 東京都港区芝田村町5の3

電話 芝 (43) 0831・0837・4977
6973・8368・8822



関西営業所 大阪市西区阿波座四番町35
名古屋営業所 名古屋市中村区笹島町(豊田ビル内)
福岡営業所 福岡市本町21
札幌営業所 札幌市北二条8の5

電話 新町 (53) 6294
電話 (55) 3181・5111・(内) 226
電話 (5) 2616
電話 (4) 1442

日本に於ける

近代消防の特性と

その隘路

荒木雄一

戦後、くわしく云うならば昭和二十三年の八月から施行された消防法に依つて火災予防の思想がはじめて行政行為に迄其主体性を明確にするに至つたのである。延焼火災の発生が都市に於ける不適切な建築構造と危険物の保有に在ることは論をまた

ないが端的な表現をするならば、火災予防を最高の手段とするのが近代消防のかがやかしい特性であり本質なのである。日本では古来から盛に行われている「火の用心」式の宣伝をいくら押し進めても人間の注意力には明らかに限界がある。これだけでは大きな火事の絶え間がない。それよりも一步を進めて万一火事が起つても最小限度の損害ですむように事前に建築上、設備上、或は管理上の指導を行うことが肝要である。消防法の規定にもとづく消防署の仕事は火災防禦の他にこれが最も大切な仕事となつたのである。たとえ火災が発生して消防自動車が出動しても、通報さえ早くすれば、しかも消防法が満足する状況が許されるならば、あらゆる火災は殆んど小火の程度ですむわけである。所が未だかかる状態にはなつて居ない。何故かと云うに第一に世間では依然として消防の内容を消火作業が大部分であると考えているのである。サイレンの音高らかに街頭を走る赤い消防自動車、これに消防のすべてがシンボライズされていると云つても過言ではない。この見方もあながち無理ではないと云うのは、戦後予防行政が施

行されて以来僅に十年、各都市の消防に於ても予防行政を行う業務力と云うのは極めて貧弱なことに依るのである。それでは何故この方面を充て実出来ないかと云うと、先づ第一に挙げられる原因は火災予防に対する理解力の不足である。自治体各都市の財政当局の立場からすると予防業務に充分な予算を出せないのは其業務効果が判然としないからである。云う。事実焼失坪数の減少も警防力と重なり合つて居て、この中から特に予防効果だけを統計的に摘出することは困難である。然し火災予防の効果は十五年二十年経つてはじめて効果をあらわすものである。不燃化建築に対して補助金を出して迄奨励するのも除々に過程を経て其効果を期待するが故にである。それから消防法の精神が火災予防業務を明らかに実現しているにもかかわらず、たまたま消防界に於ても其伝統的な立場から予防の価値を故意に転んじ火災防禦の主体性のみを固執している者も皆無とは云えない。まして消防にとつては消防自動車の更新、或は器具の増強等は予防業務とは比較にならぬ程予算が取り易い。従つて正

直に表現するならば日本に於ける消防署は消防法に従つて表看板は行政官庁であるが、其機構自体は事実は火災防禦を旧態依然として主体としていることを認めざるを得ない。この現状では火災損害を遞減することは不可能であり何等の進歩を期待することは出来ない。これを打破するにはどうしても予防業務を単に理念の上だけでなく従来の火災防禦と同一な内容に迄押し上げなければならぬ。近代消防の特性は上述の如く予防業務を第一にする点に在る。火災防禦も勿論消防の主要業務の一つであるが、これを金科玉条としてはならない。我々の仕事は火を消すだけだから周囲にどんな建築物が出来ようがどうでもよいと云う気持ならば、火災損害は文化の進展にともしない等比較的に増加するであろう。かりに消火作業をなす能力を警防力と名付けるならば、この警防力には明らかに限界性がある。不適切な建築構造、例えば不完全な通風孔、間仕切のない大きな広間を持つ劇場等で火事が起つた場合は如何に警防力を集中しても全燃してしまうことは過去に於ける数多くの劇場火災が実証するところである。又日本に於ける各都市の建築機構は将来更

に立体的に拡大される傾向が多いが、梯子自動車のとどかない十階以上の高層建築物に対しては主として建物内部の材質の不燃化、及び予防的な消防設備の完備を以てこれにかなるより外には方法がないのである。

日本に於ける「防火」と云う言葉の意味は文字通り燃え出したら水をかけて消すと云うことに限られていて、所が欧米各国では防火は、fire-resistant 即ち「耐火」であり、事前に材料を耐火的なものをえらぶか、或は耐火的に処理することを意味する。

同じ「防火」と云う言葉を例にとつても日本に於ては「消火」と云う現場行動を示し、欧米に於ては「耐火」と云う事前的予防的処理を意味している。ここに問題の出発点の誤りが在る。これを是正するのが消防法の役目である。消防法を見た人なら誰でも分る通り第六章の消火の活動を除いては全部と云つてよい程予防問題を規定してあるが或は関連した問題の解決を目的としている。第七条の建築合議事務に対するだけでも相当の人員を要する。然しながら問題は合議対象物以外の古い建築物に於け

る火災危険の発見と匡正は予防警察に依つてはじめて解決の緒に着くと云うことである。又消防法に直接規定していない危険物、例えば火薬類の如きは消防の取締りが全然及ばないかと云うとそうでもない。何故ならば火薬類の爆破は直接火災の発生を伴なうものであるから、火薬類保存所は火災発生危険区域として査察を行い得るのである。此等を含めて、数多くの必要対象物に対する消防査察を行う人員即ちインスペクターの必要数も啣筒自動車の乗車員の数と同等以上でなければならぬ。又この他にも野球場スタジアム等の観覧場に於ける予防警戒員の数も警察に於ける予備隊以上に必要となる。故に消防法に決められた予防業務を行うべき人員の数、即ち人口何人について一人の予防専従員が必要であると云うことを消防法の施行以前に政令で規定され各自治体都市ではこれにもとづいて予防専従員の予算定員を決定するわけであるが、おかしな事に消防法施行後十年に至る現在に於てもそれに関する何等の政令が出たと云うことを聞かない。然らば実際問題として現在各都市では誰が火災の予防をやっているかと云

うとこれに関する国家的な基準がないのであるから、或は啣筒乗車員を割愛したり、或は適当に決めて予防係としているのが実状であるから、この人員に就てはお話にならない位僅少である。然らば消防法と云う法律で規定された予防業務を遂行すべき人員を規定した政令を何故出さなかつたかと云うとこれには色々の理由がある。第一に消防法成立当時のいきさつである。消防法の如き国民全体に関連を持つ重要法案は当然政府立法として出されねばならなかつたが当時の政府としては全く出さずがなく、やむを得ず議員立法で上程されたのである。政府が消防法に全然熱がなかつたのは、当時内務官らよう、で固めていたから消防を警察制度から独立させたと云うことも強い不満であつたし、その上この独立した消防に種々の保安基準を司さどらせることは到底同意出来ることではなかつた。GHQの意を体した衆議院議員によつて消防法がまがりなりにも最終可決された後も、旧内務系の連中やこれらと一連のつながりを持つ消防界の最高幹部も心の中では消防法は一時的なものであり、やがて占領が解かれた後は当然反作用と

して旧制度に還元さるべきであることを固く信じていたのである。その故に消防法の殆んど全章にわたつて規定された予防業務を遂行する人員を規定すべき政令を出さなかつたと云うことはやがて消防法が廃案になる時期まで自治体消防の連中になんとかやりくりさせて置けばよいと云う腹であつたのである。現在から考えると全くナンセンスであるが、この為以後の自治体消防は予防行政に関する限り、真にいばらの道を歩まなければならなかつた。講和条約が締結されて日本の独立が達成された後も、上述の人々の期待を見事に裏切つて日本に於ける予防行政は衛生行政と共にがやかしい発展の一端をたどっている。今こそ関係各方面に於ては予防行政の重要性を理解し、予算の面に於ても機構の問題に關しても充分に支援を与えて現在国家予算の一角を上廻る火災の直接間接の損害を遞減すべき努力を願いたいものである。

(筆者は東京消防庁本郷消防署長)

随想

すべてをフル・フル・フルに

松沢春雄

まことにそそつかしい話ですが、先だつて、時計を着けたまま、風呂にとびこんで、いささか恥かしい思いをしたことがあります。さつそく時計屋に走つたのはいうまでもありませんが、それにつけても、近ごろは、すこしはずむと、ウォーター・プルーフ（防水性）で、ダスト・プルーフ（防じん性）、おまけにショック・プルーフ（緩衝性）という結構づくめの腕時計があるということでした。さしずめ、私のようなせつちかちで、不精な男には、もつてこいのものだと思つたことですが、ただ値段の点だけが私にとつてはあまりプルーフではありませんでした。

まことにそそつかしい話ですが、これはという一連のことばですが、これは昔から工學書や技術書の中で、しばしばお目にかかつています。わけてファイヤ・プルーフ（耐火性、ときには防火性）の如きは、火災防止の關係などで、毎度おなじみのことばです。しかし、ここに同じくプルーフもので、フル・プルーフ（fool-proof）というアメリカ育ちのことばがありますが、これはそうさらに使われているものではないように思われます。

私、先年—といつても戦時中のことですが—蒲生俊文（日本における安全運動の草分けの一人）という先生の著書で、はじめて知つたわけでしたが、当時、私は、このことばにほれこみ、大いに使うことを真似たものです。なぜかといえば、フランク・ワグナルスの字引が説明しているように、「おろか者でも理解され、または操作できるように、それほど単純な」とか、「どんな無知な作業者でも事故を起すことなく、スムーズに、かつ安全に操作できるように作られた」というふうな意味だつたからです。

けれども、その後間もなく、敵國語まかりならぬという風潮が濃くなり、野球でさえも、セーフは「ようし」、アウトは「だめー」などと改められていたほどでしたから、生のまま使うわけにもいかず、さりどて、簡潔な訳語も見出すことができませんでしたので、遠慮してしまいました。

ところが、やがて、こうした迷夢は、敗戦という事実によつて、ピリオドが打たれましたので、以来、青天白日の気分分、私は、このことばを機会あるごとに使い、普及これ努めて参つております。

左様、終戦後四年ほどたつたときだつたでしょうか、朝日新聞社の週刊紙、「家庭朝日」の随筆欄で、東京工業大学の宮城教授が「ほしい、バカよけ」と題して、フル・フル・フルを礼讃していました。それによつて一層拍車をかけられたようにも思われます。

☆ およそ、事務や生産の仕事の中に多年の経験が必要としたり、高度の技術を要求したりするものが存在するということは、それだけフル・フル・フルになつていけないことを示すものであります。☆

工夫や改善の余地のあることを見落
して、それがために、大した仕
事でもないのに、生字引のような事
務員や達人のような技能者に頼ら
なければやつて行けないというような
仕組になつてゐる事務所や工場が案
外多いように見かけられます。

☆ ☆

その昔、横浜で、フォード自動車
の組立工場を見たことがあります
當時は、世の中が非常に不景気で、
一般労働者の賃金も極めて低く、相
当の経験者でも、日給二円から二円
五十銭位のところでしたのに、こ
こでは、素人工でも日給五円、しかも
八時間労働の週休制だといふので、
当時の世間は、全く驚威の目を見張
つたものであります。しかし、それ
もそのはずでした。なにしろ、例の
フォード・システムでしたから、一
人一人の仕事は、極めて単純化され
ており、どんな人でも間に合う、つ
まりいふところのフル・ブルーフ
だつたのです。ですから、素人工ば
かりでも、十五分間に一台ずつの割
合で、ベルト・コンベヤーが流れ、
立派な車がどしどし工場から送り出
されていたのであります。

勿論、わが国でも、このような形

態をもつてゐる工場は、今日決して
珍らしくありませんが、反面、いま
だに芸術家的職人仕事に頼つてゐ
る向も少くありません。

もつとも、人間であるかぎり、あ
まりモノトナスな仕事だと飽きが来
てやり切れないしそれは、あたかも
チャップリンが、彼の作品モダン

・タイムスクで皮肉つてゐるよう
に——かも知れませんが、ともあれ、秩
序よく配置された単能機械の間をぬ
つて、次々とスムーズに加工されて
ゆくコンベヤー・システムの工場に
限らず、優れた事務用機械の活用な
どによつて、仕事が単純化され、或
は規格化されて、白いカードの流れ
と共に、事務がテキパキと処理され
て行くのを見ることは、美しくもあ
り、快適なものであります。

☆ ☆

さて、物ごとをフル・ブルーフ
にするといふことは、事務所や工場
だけに必要なことでしようか。そう
ではないと思ひます。社会生活のあ
らゆる面で考えなければならぬこ
とだと思ひます。例えば、国民とも
つとも接触の多い役所の窓口事務に
しても、いちいち代書人に頼らなけ
ればならないといふような面倒くさ

いことを改め、およそ義務教育を受
けた国民なら、どんなことでも、ひ
とりで手続きがとれるように、フル
・ブルーフにすることが必要だと
思ふのです。

戦後、駐留軍がわが国全土にわた
つて、市街地といわず、村落といわ
ず、分りやすい交通標識を整備した
ことは誰もが知ることであります
さすがに、アメリカは、フル・ブ
ルーフの本山だけあつて、見知らぬ
土地でも事故を起さないように、彼
等自身をフル・ブルーフの精神に
よつて守つたものだと考えられま
す。近來、わが国の家庭生活に入つ
て来た電気用品の中には、タイム・
スイツチによつて、一定の時間が来
ればひとりでに停止するものや、一
定の温度に達すると、自動的にスイ
ツチの切れるものもあります。これ
らもすべてフル・ブルーフといえ
るわけでありませぬ。

☆ ☆

もともと人間といふものは、その
正確さにおいて、はたまたその忠実
さにおいて、機械装置の比ではあり
ませぬ。いいかえると、あんまり当
てになるものはありませんから、
火災予防の面などで考えてみまして

も、「火の用心」だけでは限度があ
ると思ひます。

でありますから、生活環境にいた
しましても、職場環境にいたしまし
ても、できるかぎり発火源を無くし
たり、減らしたりする工夫と、発火
源そのものを安全化することが大切
ですし、ときによつては、危険を生
じないうちに自動的に制御する装置
や仕掛を考へてみなければなりません
まい。また、それと同時に、すべて
をファイヤ・ブルーフに改めて行く
といふ工夫も大切なことはいふまで
もありません。

人間の不注意による火災というも
のがあまりにも多いことを聞くにつ
け、フル・ブルーフの必要性を痛
感いたします。

(筆者は労働省産業安全研究所・特殊技
術指導部長)



社会面記事の

一隅から

尾崎三郎

七月下旬の社会面記事の一隅に、こんなことが報道されていた。
あるアパートの下宿人が、夕刻勤務先から帰ってきて、部屋のドアをあけたところ、石油コンロの炎が洋服ダンスに燃え移っているのをみつけ、大騒ぎとなった。その騒ぎをききつけた、アパート横の電機工場の従業員が、工場備え付けの消火器二本を持って駆け付け、消火したので、大事には至らなかつた。がしかし、たまたま使用した消火器が二本とも、四塩化炭素消火器であつたので、その従業員は、ガス中毒にかか



り、早速病院に収容されたが重体である……と。
このような記事を読むと、防災技術にたづさわる者にとって、色々と考えさせられる。
火災保険証券に消火設備条項がはりつけられてあるような物件の、備え付け消火器は、各々の火災危険によつて、それに効力のあるものを、所謂適所に配置することを要求されているので問題はないが、一般的にはそうはいかない。
昨年のことであるが、ある物件で中流どころの織物問屋さんを訪問したところ、耐火構造の事務室内に、倉庫内に備え付けられている消火器が、全部四塩化炭素のものであつた。物件をすませたのち、社長さんに、窓が小さくて通風の悪い倉庫を例にとつて、ホスゲンの恐ろしさを説明し、例の損保協会発行の「どんな消火器がよいか」のパンフレットを会社から取り寄せPRしたところ、社長さんは非常に驚ろき、早速電話で街の消火器屋さん呼びつけ「何故こんなあぶないものを納めたのか？ すぐ引き取れ」と、非常な御立腹である。消火器屋さんも負けてはいない。「最初、泡消火器を買

つていたかどうかと、お店の誰々さんにお話したところ、カタログを御覧になつて、そんな大きな図体しているものを、お客さんの出入りの多い処に置くのはみつともないから、こつちのスマートな方にしてくれといわれたものでして……」と逆襲する。次に係りの某氏が社長の前に呼ばれ、「何故わしに相談しなかつたか」とか、「もつと研究せよ」とか、大変なお小言で、その場にとても居辛らかつた。結局消火器屋さんもお詫びして、泡消火器で、それも算定会認定品のもので取換えることによつて解決した。
無理もないことと思うが、一般人達の大部分は、どんな消火器でもそれを使う場所は何処でも、一〇〇パーセントの力をもつて、何の障害もなく火が消せるということは間違いないと思つているのだらうから、当局も、損保業界も、消火器メーカーも、もつとPR運動しなければ折角のものが、何の効果をもあげることができない場合もあるだらうし、思わぬ第二、第三の悲劇が起り得るチャンスがありそうな気がしてならない。
次に新聞記事によると、公設消防

の力をかりずに小火程度で消せたとあるが、それがカーテン等に着火していたら、とても間に合わなかつたであろうし、第一、火災危険の多いアパートに一本の消火器もなく、唯大騒ぎするだけでは困りものだし、(消防条例に該当しない七、八室程度のアパートか?) 洋服ダンスのような可燃性のものすぐそばで、石油コンロなどを無防備状態で使用させるなんていうことは、全く常識外のことであり、もつと当局の適切な査察と指導が望ましい。

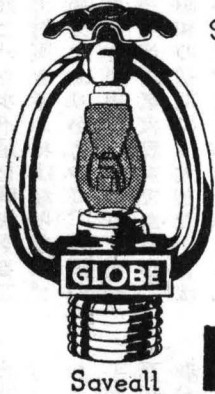
そこで、火災危険は多いが、比較的規模が小さく、屋内、外消火栓等の私設消火設備を設置することのできない大多数の物件が、もしその業種毎に、その規模毎に適切な消火器をみんなが持つていて、そして常時有効な状態にしておき、且つ、その使用方法をすべての人達が熟知していてくれるならば、今と違つた数字が罹災統計の上に現われてくるのではないかと思う。

それには、もつと価額を下げて多くの人達が買い易くすることも必要だろうし、時々みかける粗悪品が各家庭、各職場に流れ込まないようにしなければならぬだろう。

吾々損保業者も普及する一助にもなることだし、ひいては業界はじめ国の利益にもなることでもあるので、単独の消火器設備規則でもつくつて、保険料率から何らかの「メリット」をみてもよいのではないかと思うが、どのようなものであろうか。

(筆者は同和火災海上保険株式会社
技術課長)

AUTOMATIC FIREMEN



Saveall

Automatic Sprinkler

SOLE CONTRACTOR IN JAPAN FOR INSTALLATION OF

GLOBE

AUTOMATIC FIRE EXTINGUISHING APPARATUS

MIYAMOTO KOGYOSHO, LTD.

12 3 CHOME SHIBAMITA MINATO KU

TOKYO, JAPAN

TELEPHONE MITA (45) 0088, 0089 3523, 3524

株式会社

宮本工業所



水害の子防の諸問題

矢野勝乙

一、水害問題の現況

我国は台風の通路にあつて、年々大きな災害を蒙り、加うるに世界屈指の地震地帯に位置するといふ、災害といつた立場から言うると、まさに恵れない宿命を担つてゐる。しかしそれは、ただ宿命といつて諦観することのみをもつては許されない。我々は此を克服していかねばならない。いや恐しい洪水を転じて、むしろ此を利用しなければならぬ。現に本年は早魃に苦んでゐるぐらゐである。だから洪水という有り余る水

害と早魃という水不足を解決する二つの水害対策を考えねばならない。今少し過去をふりかえつて、我国の大きな災害を思出してみよう。先づ大正十二年が関東大震災であるが、その後昭和の初期には大した災害は余りなかつた。ところが昭和九年には世界一と言われた「室戸台風」が四国に上陸して関西方面に大災害を与へてゐる。

ついで昭和十三年には、全国的に各地に大風水害がおこつた。特に阪神間の六甲山系から押出された土石流は、阪神間に巨岩砂礫がらゐると埋積し、神戸市内の被害も亦激甚を極めた。終戦直後の昭和二十二年の「カスリン台風」昭和二十三年の「アイオン台風」引つづいての昭和二十五年の「ジェーン台風」等はただでも疲弊しきつていた我国経済に大きな打撃を与へた。昭和二十八年の西日本一帯及和歌山県又は伊勢湾沿岸等の大風水害は未だ我々の記憶に生々しいものがある。日本三大水害という、明治四十一年の大水害、昭和十二年の大水害と、この昭和二十八年の大水害をあげることが出来る。

戦後十年間の年平均被害数は二、五〇〇億円の巨額に達している状態である。河川の氾濫に因る被害の十年平均を拾つてみると、氾濫面積五〇万町歩、流失埋没耕地面積五万町歩、被害戸数、五五万戸、被害人口二七〇万人という大きな数字を示している。このような大きな災害被害を防止する主要な役割をなすものは、何といつても抜本的な治山治水事業の強力な実行にあることは申すまでもない。

しからば我国の治山治水事業はどのように進んでいるか、将来の見透しはどうか、という一言にしていへば、極めて遅々として、以上のよいうな自然の暴威を充分にコントロールしてゐるとは残念ながら言えないのである。

我国には河川法施行河川が五二〇本、その延長一・二万軒ある。又河川法準用河川が約八〇〇〇本、その延長七・〇万軒とされている。

しかし此等の数多い河川の内竣功河川と言えるものは僅かに施行河川一〇本、準用河川一五〇本しかない。改修済延長は施行河川では全延長の約 $\frac{1}{2}$ 、準用河川では約 $\frac{1}{4}$ といつた程度にすぎないのである。もつ

とも河川改修工事には竣功という状態を厳密に定義づけることは難しい。即ち河川に一応兩岸に堤防が完成し、護岸、水制、床止等の補強施設が完備されても、相手になる洪水は出水のたびにその最大流量を初め洪水の容貌を変えて出てくるし、又一度竣功した河川も年々その河相、流域が変つていくので河川は竣功の翌日から再び自然との戦に挑んで、此をみまもつていく不断の努力が注がなければならないからである。

河川に重大な関係のある森林の様相はどうなつていようか。我が国の林野面積は約二、五〇〇万町歩といわれているが、この内山地の荒廃しているものは、(1)崩壊地、禿山地、地隙等を拾いあげると約三三万町歩に及んでいる。又更に(2)荒廃移行林、崩壊予防林、水源保安林等の総面積は四四万町歩といわれているので、合計七十七万町歩という広い面積が荒廃していることになる。このために土砂の流出は年平均一五億立米という莫大な量に及んでいる。この流出土砂は年々河床に推積(一部海に流入するものもあるが)していくわけであるから、自然河床が上昇して、洪水の流れる河積を縮

少していくことになり、又同じ流量に対してはその洪水位が高くなることになつて、氾濫の危険度を増していくことになるわけである。以上の荒廃林野の復旧改良事業は全体の1/3程度しか未だ進んでいない状態である。

このように山地も河川もその対策が必らずしも充分実施されていない現実にあつて、我々はこれからどうしてこの問題を解決していくべきかという課題に真剣にとりこんで考えなければならぬ。

二、何処に問題点があるのか

災害防止の鍵は抜本的治山治水対策の遂行にあるといふことは誰しも異論はない筈である。だからやればよいじゃないかと簡単に割り切つて考へるのが普通である。確かにその通りである。しかし最少限度にこの自然の暴威を克服するためには、昭和二十八年政府で検討した「治山治水対策処理要綱」によると、全事業費として当時一・八兆億円の莫大な経費を必要とするものとされている。我國の今日の財政をもつてして、此は生やさしいことではない。被害額が年平均二、五〇〇億円にも及んで

いること、そして尊い人命がその都度失われるといういたましい現実からすればその位の投資は可能であるのではないか。又政府の責任であるべきではないか、という議論もあつて当然である。しかし我々に関係の深い公共事業のみについて考へても、例えば我國の道路問題であるが、我國の道路が国辱の悪路であつて、加え、最近の自動車交通の激増ぶりをみると、治山治水の問題と等しく大きな問題であることが分る。これには緊急整備費として約一・〇兆円近い経費が必要とされている。又もう一つの例として、住宅問題がある。今尚二八〇・〇万户の住宅戸数が不足していると言われている。その他食糧の増産問題動力源の開発問題、衛生環境の改良問題等々さまざまな公共事業という一つの分野のみから考へても、何れもこれらの問題を充足する財政処置を講じることがはたしかに困難な苦しい問題であろう。いわんや教育費、貿易振興費、自衛費等数多い諸々の施策を満たしていくためには財政上の色々の問題があることは考へられる。

だから我々はどうしても苦しい財政の枠内で此問題を効率的に解決す

るように努力しなければならない。そこで一体何処に災害問題のネック・ポイントがあるか。何故災害はこのように激増しそれを打解することが出来ないかという点から考へてみなければならぬ。

私は今迄もしばしば災害累増の原因として、記録破りの大豪雨が連年連続して、人為をもつてなしえなかつたとする(昨年昭和三十三年の長崎県諫早の水害はその特にいちぢるしい例であるが)考へ方や、山林の濫伐、戦時中の荒廃等の諸原因説をあげたことがある。

又全部ではないにしても、若干はそういったことが原因になつていふことは、いなめないであろう。しかし私は此等の原因はそれ程致命的であるかどうかは、いささか疑問があるのではないかと思ふ。

災害特に水害の累増の原因は大別して技術的問題と政策上の問題に分けられる。そして更に此等の原因に輪をかけているのが災害便乗の悪弊にあるとも言える。

技術的問題とは治山治水対策上の科学技術がはたして十分進歩しているか、はたして災害を技術的に完全に処理出来ているかという問題で

ある。河川工学に例をとつてみて、河川の実態は、今日十分よく把握されていない。ましてや、洪水処理をいかにしたら治水の完璧を期しうるかということは、今日尚その大部分が残された未解決の分野に属している。

予算が足りないということは、現場の人々の常に嘆く合言葉になつている。私もよく研究費が足りないことを口ぐせのようにぼやくことがある。しかし、予算が十分あつたら、はたして完全な対策が可能かという、そこには大いに問題がある。治水計画をたてようとすると先ず第一に計画高水流量を決める必要がある。では計画高水流量を適確に決めるのはどうしたらよいかとなると、我々は多くの難関にぶつかると、第一に水文資料の不足という点である。第二に仮に長期の正しい資料が十分あつても、その資料を使つてどうして理論的に答を出すかという点である。これは計画高水流量の決定という一つの例にすぎない。その他に我々がよく理解出来ていない問題が実に多い。私はここで余りにも専門的な個々の例をあげて指摘しようとはしないが、兎に角非常に多くの

分らない問題が潜在している。

ではそうした分らない問題、例えば河川の蛇行性、河床の安定勾配、洪水時河床の洗堀、護岸水制の配置と強度等の技術的解明なくして、良心的設計というものはほんとはあり得ない筈である。仮りに経験による所謂カンによつて設計されたとしても、それが妥当であるかということになると簡単に判定出来ない。金が足りないという問題より、この方が先づ解決されねばならない先決問題である。

そこで重ねていうことになるが、もつと我々は技術上の向上を期することに真剣にならなければならぬことを感ずる。学問をする研究者の重大な責任を私もその一人として痛感しているが、此は一人の力よりは多くの力で解決されるべきである。さて二本の柱のうちのもう一つの問題である。防災問題に関する政治上の施策の問題がある。私は防災の技術の研究所の一員であつて、余りこの方面の知識をもたないが、素人論として今日の防災政策というものには色々問題があるようにみえる。簡単に記述すると第一に維持管理の強化が何故もつと徹底して行えない

かという点である。我国の最近十年の河川維持費を全国的にみると、僅かに年平均均五・八億円程度である。

これは数多い我国の河川に比べて誠に驚くべき小額である。第二に災害復旧事業の重点化と純化の問題である。これは実際の行政上政治上何れも言うべくして行われ難い問題である。しかし最近では可成り改正されて、正しい在り方に接近しつつあるようであるが、まだまだ残された問題は多い。私はこの点を解決することによつて、正しい治山治水事業が迅速に促進されることを熱望している。第三にもう少し財政処置の考慮が払れないかという点である。私は金があつても現代の河川工学で十分こなしえない恐れがあるといつたようなことを述べたが、それにしても今のような貧弱な予算では余りにも情ないように思われる。それは水害というものは一日改修が早く出来ればそれだけ効果が顕著に表れるからである。大体的見当として改修済河川と未改修河川の被災額を比較してみると改修した河川では $\frac{1}{10}$ 程度の被害額ですんでいるという事実はこの間の様相を雄弁に物語つている。又増破は此を一年遅らせると二〜三倍

日本損害保険協会製作

防火映画御紹介

損保協会災害予防部では火災予防運動の一環として防火に関する映画を毎年企画製作しており、既に次の九本が完成している。特に「街を守る子たち」は全日本PR映画コンクールに入賞、教育映画として文部省から選定された作品である。これらの映画を学校や工場、消防署等で上映希望の場合には無料で貸出に応じておりますから広く御利用下さい。(主として十六耗版)

昭和24年度作品「燃えない町」 二巻
25年度「私達の家庭防火」 二巻

26年度「一人は万人の為に」 二巻
人は一人の為に」 二巻

27年度「音楽一家」 二巻
28年度「工場の防火」 二巻

(国家消防本部並に労働省推薦)
29年度「街を守る子たち」 二巻
(文部省選定)

30年度「修学旅行」 二巻
31年度「ともだち」 四巻

(国家消防本部推薦)
(文部省選定)

32年度作品「只今勉強中」 三巻
(国家消防本部推薦)

(文部省選定(特別選定))
33年度「予定一タツツや 三巻
ん一家」

消防演習

寺尾 知女

に激増すると言われている、いかに速やかな河川改修工事復旧工事が必要であるかが分る。この意味でも少し熱意ある処置があつてしかるべきものと考える。その他こまかいことでは色々議論があるが省いて、私がこの小論をかこうとした水害防止に関する技術上の問題について焦点を絞つて以下論を進めていくことにしよう。

三、水害防止の基本的考え方

一体どうしたら水害をなくすことが出来るであろうか。此は私達に与えられた一生かかつても解決しなければならぬ宿題である。

多くの先人も等しくこの問題に長い歴史をついやしてあらゆる努力が注がれてきたわけである。

私達は今洪水を海に流すという方式と、洪水を貯溜調節しようとする方式の二つの方法を実行しつつある。しかしこれ以外に方法はないのかと考へてみると、私は次の五つのステップを検討してみる必要があるように思う。

若干空想めいて、今日の科学の力ではそう簡単に解決されそうにもないが、電気機械化学等の工学分野ではその研究は、誠に日進月歩で、開拓のテンポは極めて速い。独り土木工学の特に河川工学の進歩のみが遅

々としていることは許されない。そこで五つのステップとは

1. 豪雨を発生せしめない方法はないか。

2. 降つても河に流出せしめない方法はないか。

3. 河に流出しても、洪水が累積して大きくならないようにする方法はないか。

4. 累積して大洪水となつても氾濫せしめない方法はないか。

5. 氾濫してもよいが被害を軽減せしめる方法はないか。

である。歴史的に人類の洪水との斗争は以上の五階段の逆の順序で行われてきている。即ち最後の氾濫して

も被害さえ少なければよいという考へ方は古い我国の治水事業の一つの方法で、その代表的なのは加藤清正が九州の菊池川等諸河川に採用した水越堤の工法である。

中国にも「堤防無用論」などという説をとなえた治水学者もいた位で、人間が少い土地の価値の低い処、或は時代にはこうした考へ方もある程度許されていた。木曾川にも「籠堤」といつて石で築いて、洪水が自由に浸透して堤内地に浸水する仕懸になつている堤防が築かれていたところがあつた。しかしこのような方法は人間の多い、耕して山頂に至つている我国の現状ではそう簡単には許されないであろう。そこで我国の洪水処理の主流的な考へ方としては(4)の方式を採つている。或は戦後は(3)の流量調節方式をも併用して採るにいたつている。もつとも(3)の方式としては主として洪水調節池によつて洪水の最大量を減少せしめる方法をとつているが、此は必らずしもこの方法のみが唯一の策ではないように思われる。

(筆者は京大教授)

京大防災研究所

(続)

まづ引いてくれ」と談じこんだ。親分どうしがはなし合つているうちに、もう若い連中が三々五々あつちこつちではじまつてしまつた。しかしこいつは両頭取の話し合ひでたいした間違ひもおきないでおさまつたが、その夜また神田花房町から火事が出てまたけんかと云うことになつた。そのときの模様を風俗雜誌江戸の花々には

川一筋を隔てて儘によ組は纏を打振り打振りきやり声かけ乗込みて首尾よく消口所々を取り纏を下げんとせし折から、か組、わ組は彼方よりよ組を目がけ瓦を投げかけ何々差別もあらなわだすき、やにはに向う鉢巻して無二無三に打かけ打かけけんかに名を得し荒男子か組に文五郎、三次郎、米吉、わ組に清七、熊次郎、甚助、千之介、た組に新三郎、鍋鉄、次郎吉、れ組に長吉、つ組に斧吉、と組に万五郎、などに力勝れし者共等めいめいありあう梁柱揚枝の如く振りかざし、今日ぞよ組を皆殺し、一人も土地へ帰すなど叫びののしり斗いける。よ組もかねて期したることなれば神田の技倆見せずと剛力無双の少年等助次郎、新石衛

門、幸助、辰五郎、清七、己之助、太郎吉、七藏など鍵おつとつて挑み合う、未だ雌雄も定めぬ折から早くも勢を引揚げさせ、筋違見附に入しかば八番組は度を失い追うと叶はぬ天下の関門、組々土地へ引上る。よ組は直に奉行所へ其趣を訴出しかば双方遺趣意恨なきよりの申渡を受けたりける然るに尚も八組未だ心にあきたして折を伺い居たりける。

さてこんなような小さなさかいには、これからのちもちよいちよいあつた。

同七年甲申二月朝は風八時頃、神田三河町一丁目南角茶漬屋より出火、西北の風強く日本橋迄焼け荒布橋で避難民が雑踏し水中に溺死したものの数知れずと云う火事。同夜音羽九丁目から出火して桜木町、目白坂改代町迄延焼した火事、同じ日の夜半銀座一丁目から出火して弓町辺まで焼けた火事の時など小さい出入があつた。同月八日夕刻壺岸島南新堀二丁目から火が出て湊橋際まで焼失した火事のとくに大爆発してしまつた。

この日彦番組（いよはに万組）が揃つて引上げて来たのが小網町、こ

こに待つていたのが八番組（ほわかた組）九番組（れそつね組）十番組（とちりぬるを組）アツと云う内に大げんか、今度は命の捨小舟処も小網町と云うわけで双方劣らぬ男と男。このときの名の通つた頭取に、は組の伊兵衛と云う頭が本石町に住んでいて。また、よ組には紺尾町に助次郎と云う頭がいて、ともに江戸八百八町に名の通つた頭取役であつた。この伊兵衛が悠然として、よ組の助次郎に

「最中のやつらを取しまる自分がその甲斐もなくお上に対しました町内へ何といひ訳も出来ない今日の出入は俺が一身に引受けて死すから後はお前がよくやつてくれ」と老の身を、修羅場の中へ飛込もうとすると助次郎が、

「とんでもねえ俺が」「いや俺が」と義侠と美侠互に競う舞台の上、お芝居でやるとかつさいの起るような一とき。このうちに一番組は浮足立ちしどころもどろになる頃、これにさしかかつたのが二番組と七番組（ろせもめする千組の三・四百人）の同勢はじめてけんかと知つてかねて仲の悪るい八、九、十番組一人も逃すなぶつちめると云うわけで小網町は文字

通りの修羅場となり、瓦は飛ぶ罵口はひらめく、血煙立てて叫ぶ声は当に懐しいものになつてしまつた。死人負傷者数知れず終に八、九、十番組の面には総くずれとなつて逃げ出ししまつた。このとき都合の悪るいことに町奉行の小者一人が打殺されたのでさわぎが大きくなり、ついに伊兵衛と助次郎が罪を引受けて伝馬町へ入牢、調べの末両人とも遠島という事になつてしまつた。このとき伊兵衛は六十才、島へおくられてはどうていこの身体はもたないと獄中で舌をかみ切つて死んでしまつた。

助次郎は佐渡島で十三年の星霜を送るようになつてしまつた。けんかもこうなるとべしやんこになるものでどつちから言い出したともわからないがやめましよう、親方衆に申訳がないと云うので。以後、口げんかや小さな出入はあつたが、こんな数百年も犠牲者の出る様なけんかはなくなつてしまつた。

けんかのおこりにも理屈のなかつた様に、この話しにも理屈もなく、此より町火消等大いに驚きけんかは皆慎みしとぞ、と云うことでおわりましよう。

（筆者は東京消防庁予防部指導課勤務）

災火物危険

その2

十ヶ年の歩み

清水忠雄

六問 危険物火災は製造、貯蔵、取扱のうちどのような処に発生するか。

答 九三七件の内取扱中：七九六件（八五％）で断然一位を占め、次いで貯蔵中、製造中の順。僅少乍ら運搬中五件は印象的である。

解説（六問）

前回の五ヶ年間の統計と同様圧倒的に取扱中の火災が多い。此の厳然たる事実から取扱主任者の制度が生れ、火災予防に重要な役割を担つて戴いている訳けである。昭二三、二四年に比し、第一問で判然としている通り危険物行政が好成績を挙げている裏面には取扱主任者の蔭の努力が大きく結実したものと考えるものである。

七問 危険物火災による死傷者はどうか。

十、危険物火災常態別発生状況（昭二五～三二）

年度別	区別				
	取扱中	製造中	貯蔵中	運搬中	その他
昭和二五年	五	五	一〇	一	六
二六年	五	九	七	一	七
二七年	五	四	七	一	空
二八年	空	七	三	二	二
二九年	一〇五	三	四	一	二
三十年	二七	五	三	七	一三
三一年	一八	八	一	七	一七
三二年	一七〇	六	二	七	一七
計	九六	四〇	五九	四〇	九七

十一、危険物火災による死傷者状況

年度別	区別	
	死者	傷者
昭和二五年	二	三
二六年	四	四
二七年	五	三
二八年	二	二
二九年	六	七
三十年	五	六
三一年	三	六
三二年	六	六
計	三	一八

答 残念乍ら毎年増加の一途にある。

解説（七問）

危険物の需要が年毎に増加し、これに比例して危険物火災が増加し、それに伴つて死傷者が年々増えて行く。我々も此の厳肅なる事実を事実として素直に認めるにやぶさかでない。然し何とか少くなる様に今後とも献身の努力を傾注して、予防措置

に万全を期したい。

それには取扱主任者の全面的な協力和、更に危険物の性質をより広く理解して貰つて正しい危険物の取扱を身に付けて戴く以外に方法が無い。その意味に於て益々危険物の卓上実験の必要性を痛感する次第である。

八問 危険物火災の覚知とその損害額はどうか。

当選発表

懸賞募集防火P R映画シナリオ

社団法人 日本損害保険協会

当協会主催、保険毎日新聞社、日本保険新聞社後援で昨年十二月以来懸賞募集中の防火P R映画シナリオは五月末日を以つてメ切りましたが、全国各階層の人の応募があり、総数は五十四編にのぼりましたが、いづれも力作が多く、審査委員会に於て厳正な審査の結果左記の作品が当選と決定致しました。

応募された各位並に本催しに御協力いただきました関係各位に対し厚く謝意を表する次第です。

尚残念乍ら当選されなかつた各氏には記念品を御送り致しました。

当選作品

一等 賞金 五〇、〇〇〇円

「タツチヤン一家」 東京都大田区御園町二ノ一七

金井方 黒 沢 剛

二等 賞金 二五、〇〇〇円

「まかぬ種は生えぬ」 大阪府八尾市木戸三三〇

島田美代子

二等 賞金 二五、〇〇〇円

「街を守る少年」 東京都大田区久ヶ原九九三

高木方 細川勝也

解説 (十問)

此れも又別に解説の要なき課題で良く検討すれば予防対策と必須の事柄ばかりである。例えば機関の調整不良に基くものは当然のこと乍ら心すべき事であり次いで車輛では部品不良、電気配線の不良の順であり、船舶では特に船体修理中の失火に注意すべきことが教えられる。危険物の取扱う船については特に角意すべきである。毎度乍ら物心両面の消火準備が必要である。

3、結言

危険物火災十ヶ年の歩みを統計を通じて反省して見た。昭和二三、二四年の初期に於ては条例施行と同時にその対象を把握することが急務であり又危険物の実態を知ることが我々に課せられた至上命令であつた。その基盤の上に両足をふんばつて

予防啓蒙に當つたのが、昭和二五、六年以降に実績となつて現われたものと考えたい。大協石油四日市製油所のタンク火災(本誌第二十巻)は油断すればこの様な大火を招来することを教えられた。昭和二十九年十月十五日の出来ごとである。此の大事件を契機として消防側も業者側も真剣に予防と云うことの重要性を痛感させられた。

又労働省労働基準局の松沢氏の本誌第二十一巻に於て「安全管理に於ける火災予防の役割」と題して指摘せられた如き……

「危険物について考えて見よう。危険物貯蔵庫に、ろくな標本もなければ、注意書もなく、戸締りも悪くて誰でも出入りする。そして至るところへ危険物を持ち出して使い、容器をそのままにして置く、しかもくわえ煙草の先生がその辺でうろろうる働

十三、危険物火災発生件数の不注意不可抗力の別

年度別	三五年	三六年	三七年	三八年	三九年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	計	比率
不注意	三	三	三	三	一〇	二	八	一	二	二	二	八七	四六・六%
不可抗力	四	二	八	九	五	八	一	二	二	二	二	四七	五〇・〇%
その他													〇・四%
計	七	五	一一	一二	一五	一〇	一七	三	四	四	四	一三八	

いている。云々」又云う「ガソリン蒸気の充満する室内へ裸電球を持ち込むのも無理はないし、注水危険物にホースを向けて火災を拡大させるのも当り前である。」「理論的には消防行政があり、安全行政があり、官民の火災予防運動が存在する限り、火災の発生は年ごとに減少して

然るべきである。ところが、一向にその効果が現われていないと云うことは、恰かも原動機の回転が末端の機械にまで伝わらないのと同断である云々」と手きびしいお叱りを述べられている。一部には此の様なことが行われていたかも知れないが、全部ではないこと。又幾何級数的に増

十四、車輛火災原因別発生状況

計	原因別				計
	機械調整不良	部品不良	電気配線不良	給油その他	
一三	二	二	二	七	二五年
一七	四	二	三	八	二六年
三	六	三	三	九	二七年
二〇	二		七	二	二八年
壹	六	六	七	一六	二九年
四	五	四	一	一〇	三〇年
五	二	四	一	一七	三一年
四	八	一	三	一〇	三二年
二七	壹	九	八	一六	計

十五、船舶火災発生件数原因別状況

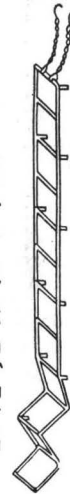
計	原因別				計
	機械調整不良	部品不良	電気配線不良	船体修理中	
七	三		一	一	二五年
六			一	四	二六年
五			二	三	二七年
七			二	二	二八年
一			一		二九年
四			一	三	三〇年
四			一	一	三一年
五			一	一	三二年
二九	四	六	六	三	計

備えて安心
使って便利



プレスト消火器

国消・損保認定品



折畳式
非常梯子
ラダット

実用新案 第四五五八〇七号

プレスト産業株式会社

東京都中央区日本橋茅場町1-12

電話 (67) 0882・4587

此の些かな危険物火災の十問答集を十二分に活用して載いて危険火災の減少に確信を以て当られる様切望する次第である。

(完)

(筆者は横浜市消防局予防課勤務)

備考 3、危険物取扱主任者免許証交付状況

年度別	免許証交付数		計	累計
	甲種	乙種		
昭和二十四年	一八七	一、一四五	一、三三二	一、三三二
二十五	七二	六二二	六九四	二、〇二六
二十六	六四	四八六	五五〇	二、五七六
二十七	三一	六一五	六四六	三、二二二
二十八	二〇	五九二	六一二	三、八三四
二十九	七〇	五九七	六六七	四、五〇一
三十	三五	五三八	五七三	五、〇七四
三十一	六四	六二〇	六八四	五、七五八
三十二	四二	七九三	八三五	六、五九三
計	五八五	六、〇〇八	六、五九三	六、五九三

備考 2、危険物取締条例対象物年度別総数

年度別	許可総数	備考
昭和二十三年	八〇二件	
二十四	一、四四八件	六四六件増
二十五	一、八三九件	三九一件増
二十六	二、〇二〇件	一八二件増
二十七	二、二八二件	二六二件増
二十八	二、八二二件	五四〇件増
二十九	三、〇四六件	二二四件増
三十	三、五四五件	四九九件増
三十一	三、八六〇件	三一五件増
三十二	四、三一八件	四五八件増

備考 4、危険物条例対象物明細並関係都市との比較表

	横浜市	神戸市	名古屋市
製造所	97	108	57
貯蔵庫	233	195	160
置場	278	386	408
屋外そう	594	291	698
屋内そう	27	44	—
地下そう	131	77	—
移動そう	389	69	263
給油場	(自) 50 (営) 128	121	251
取扱場	237	89	56
運搬そう	446	78	215
舟そう	274	59	15
小量取扱場	1,570	873	2,161
映写室	92	—	145
小計	4,546	2,417	2,161
仮貯蔵	276	—	—
屋外貯蔵所	—	161	38
備考	33—4月末 現在	32—12月末 "	33—4月末 "

前号主要目次

吹ポヤ……………本名 広
天角先生行状記…鈴木 呷生
勝負の世界……………横山 和夫
アメリカ合衆国の森林火災の消火について…井上 桂
定火消……………松本 典男
保険と私……………松沢 春雄
プロセニウム・シヤツター……………味岡 健二
あれこれ
火災時の放射性アイソトプの放射能危険・3…国際消防長協会著 穴戸修抄訳
台風と大火……………中原 孫吉
危険物火災十年の歩み・1…清水 忠雄

森林火災の

消火について

アメリカ合衆國

F. P. A. JOURNAL 誌より

残火処理への利用

厚く堆積するマツ葉の内の残火処理に透過水が利用できるかが実験された。

水との比較ではこの優劣性は水の約一・二九倍であることを示した。

適当な濃度の透過水を使えば水の量で二三%、また時間で一三%の節約となつた。これらの量は一見して小さいようにみえるけれども、大火災で多く集まると非常な節約となる。

もう一つ透過水の利点は飛火の再燃を防ぐことである。厚く堆積する落葉中の残火処理では水と透過水の再燃率は一・四三対一である。同様な可燃物では透過水を使つての残火処理は水よりも約三〇%再燃を減少させることが期待できるという。

防火線の散布

この試験では防火線に水と透過水とをまいて、何れが湿润状態が長持するかが実験された。結果は水より五〇%長く乾燥を防ぎ得ることを示した。これは透過水の表面拡散と透過が大きいためである。

結論として透過水は水とは物理性

に有意な差のあることがわかつた。水の表面張力の半分以下のものが、消火により効果を示した。

硼酸カルシウム・ナトリウム

一九五五年に行われた化学薬剤の消火に新時代を劃したものはこの薬剤である。

これについては室内実験が一九五四年に行われ、野外実験が次年に行われ、現在も引続き行われている。

硼酸ナトリウム・カルシウムがそれであつて、これは太平洋岸で発掘され、鋳物から加工されたものである。人畜植物に無害であるが、亜鉛と真鍮はわずかに腐蝕するが鉄は侵さない。二%までは水に可溶性で、細かく砕くと水一ガロンにつき八ポンドの濃度で安定した懸濁液となる。

高融点、一〇〇〇度Cのほか、噴霧できる消火剤として好ましい特性をもつほか、可燃物によく密着して被覆する。

散布量は火災が達する五〜三〇分前に一〇〇平方呎当り三ガロンを巾四〜六呎、長さ五八〇〇呎の防火線にまいた。

結果は草地や灌木火災の風上側、

風下側では火は停止した。風下側の葉のかけかたの不足した所で火は突破した。

火入の防火線への応用

平均中位の勾配の所で草地や灌木地に風下と風上がわに、巾六〜八呎長さ一六〇〇呎にこの葉を一〇〇平方呎当り三・五ガロンの割合で、火のくる三〜四時間前に散布した。

結果は延焼は風側、風下側ではこの線で停止して、火はこの防火線に沿って燃えた。経験者の言では葉を散布しなければ、火は防火線を越したことは明らかである。

飛火防止に利用

防火線内にあつて飛火の原因となるカンシ林にこの葉を高さ約一・五米まで散布した。結果は全然樹冠火をおこさなかつた。

迎火のための防火線に利用

二〜四呎の細い巾に低い灌木や草地にこの葉をまいたが、まいた直後から二〇分間までは迎火のための防火線として効果があつた。

直接の火焰への利用

一五〇〇呎の長さに灌木や草地火災に直接噴霧したところ、冷却と鎮火に水と同様の効果を示した。水だけでおこる再燃がこの葉ではみられなかつた。これに使うノズルは五呎の長さで先端一〇吋が三〇度に曲つたものが、高い木や密林の散布に具合よいという。

葉の濃度は水一ガロン当り、五ポンドの濃度が可燃物への透過、被覆の点でよい。圧力一五〇ポンド一平方吋、毎分四・五〜七ガロン位のノズルの噴霧がよいという。

結論

- (1) この葉は草地火災の消火に水より優れている。火災の発生熱量が余り大きくないときはいつでも延焼をとめる効果をもつが、これはこの葉が飛火や風側、風上側の火災と大火災でも火勢の弱つたときに使えることを意味している。水より効果のあるのは残効の長い点である。これは火が来る前方にあらかじめ散布しておくことができることを意味する。これはまた手の指状に不規則に燃えている火災の消火長を節約できる。
- (2) この葉の利用の範囲は広い。た

とえば末木や枝葉を焼却するときの防火線に使えるほか、防火線の拡張や岩礫地の防火線に應用できる。

(3) この葉の航空機散布も可能である。

(4) 水と葉の混合方法を改良する必要がある。簡単な方法があれば現場まで粉剤で運べるので非常に便利である。

(5) 色々の状態の火災への應用、最適の濃度を決める必要がある。

一九五六年のこの葉の研究

この年も葉の持効性が実験された。この葉剤が火災にどう作用するかが実験された。

このためタンク車が七台、農業散布用の軽飛行機が用意された。

未解決な問題は葉剤と水との結合剤、溶液のホース内部の摩擦等であつた。その他タンク車の圧力パッキングの耐圧、ポンプシャフトの焼損などである。

タンク車

一ガロンの水にこの葉を四ポンド混ぜるのが限度であるので、五ポンド溶解させることは困難である。一ガ

ロン三ポンド以下の濃度では可燃物に附着しない。

航空機散布

最初は三〇〇ガロンタンク二台を飛行機につけた。一ガロンの水に四ポンドを混ぜた葉剤を三〇〇ガロンのタンクに充たすのに一人で約四時間かかる。これでは実用に適さないので、三〜六呎コンクリートミキサーが使われた。これの三台で一度に二二〇〇ガロン製造できる。

積込みを早めるため真空タンクが使われた。次はコンクリートミキサーをゼットミキサーに取換えた。これで一時間に三六〇〇ガロンの葉剤が作られる。

最新式ミキサーでは一分間約二〇ガロンが製造できる。

混合消火剤の貯蔵

粉剤は乾燥させて袋の中に保存すれば、固化したり、変質はしない。

この葉剤の価格

カリフォルニアのウイルミンクトンで甲板渡しの場合はトン当り、一〇・五ドルで、ウイルミングトン

からサクラメントまでの運賃が五
一〇トンでポンド当り一セントであ
る。其他の経費を併せ、一ガロン〇
一八ドルとなる。カリフォルニアで
消火に水を使うとガロン当り〇・五
〜六ドルかかる。

野外試験の結果

タンク車による消火

大きい森林の直接消火

この薬は水よりも効果があつて、
使用量も水の三分一にすぎなかつ
た。また固つた薬が再燃を阻止し
た。

灌木、草地への直接消火

この薬によれば水より早く消火で
きる。薬は乾燥しても残留するた
め、再燃を少なくするのは水よりす
ぐれた点である。

防火線上への散布

岩礫地で人手は勿論ブルトローザ
による防火線の構築も出来ない所に
は効果がある。防火線の弱点な所に
薬をまいて防火効果を強化できる。

火 入

道路沿いの草地に巾三〜五呎、長

さ七、〇六四呎の線にこの薬がまか
れた、可燃物の表面だけを被うだけ
でよい。このときの量は一〇〇平方
呎当り一・八ガロンが適当である。

飛 火

防火線内にあつて飛火をおこす危
険な可燃物に消火薬を放射させると
効果があり、とくに低くたれ下つた
枝や枯木などにはまくべきである。

迎え火のための防火線

アンジェルス国有林の三、五〇〇
町歩のダンスモアアの火災で、巾八
呎長さ三、〇〇〇呎の灌木に消火薬
がまかれた。このまいた所に沢山の
火の粉を吹きこむ反対風の悪条件が
あつたにもかかわらず、ここには飛
火は一つもおこらず、ここを拠点に
迎火ができた、無散布の所には飛火
がおきた。

残火処理への利用

この硼酸塩の水溶液は森林腐植や
落葉の細かい可燃物中への透過は困
難であるので、火災はこの薬の散布
線まで燃焼してきて、ここでは落葉
の下で燃え続ける。散布線の下では
くすぶり、散布線をすぎて再燃す

る。そこでこのような所ではシヤベ
ル等でかきおこしをやつて薬をまく
必要がある。

この薬は火の熱量を減じ、延焼率
を低下さすし、効力の持効性が水よ
り長いようである。鋸くづの火災で
は二〜三呎の内部までこの薬は効果
があつた。再燃はおこらなかつた。
こんなことは水だけの残火処理では
ほとんど望めない。

飛行機による散布

一四の火災に飛行機でまいたこの
薬量は、二三の火災に地上のタンク
車で使つた薬量の一〇倍になつた。
一〇〇ガロンづつを散布した一四
の火災のうち、一一は消火でき、二
つに効果なく、一つはかえつて悪い
結果となつた。この反対効果は薬剤
が迎火を消す結果おきたものである
。この薬の持続性は飛行機による
投下で実証された。

(1) 防火線に散布

険しい峯や近より難い所の延焼を
防ぐには、飛行機でこの薬をまけば
防げる。クリーブランド国有林の火
災でこの効果が判然とした。投下さ
れた薬剤は可燃物や地上に固形の層
状として残つた。

これによつて灌木程度までの火災
は防げるという。

南向きの飛火がおこるおそれのあ
る所にこの薬を飛行機散布すると効
果的である。この方法がサンベルナ
ルデイの森林のマツキンレー火災で
使われ効果があつた。

(2) 直接消火

シヤスター、トリニエイ国有林の
ボヘモタツシュの火災で、一・五町
歩に二〇〇ガロンのこの薬が投下さ
れ、小さい火災や飛火を全部消しと
めた。薬の落ちた所の松葉や腐植層
には全燃飛火もおきなかつた。一
七・九米/秒の強風であつたため、
まかない箇所にはかなり飛火がおこ
つた。モミの樹冠に薬の落ちた所は
焼けなかつた。

飛行機でこの薬をまくには積載量
の半分を直接火の上に、残り半分を
燃えようとする接続地にまくのがよ
いという。この空中からの散布は地
形の困難な大火災に非常に役立つと
いう。

空中投下の限度

この方法でも針葉樹の大森林のよ
うな高温を発する火災には適用でき
ない。こんな火災ではトラクターで

作つた防火線も突破し、延焼速度の早い火の移動を消すことはできなかつた。

要するにこのナトリウム、カルシウムの硼酸塩の使用法は

(1) 水より再燃のおそれは少く、火災を消すことができる。

(2) 防火線に散布すれば火災の風上、風側は勿論、風下の一部にも効果がある。

(3) 防火線内の飛火の危険可燃物を防火処理できる。

飛行機による薬剤投下による草

地、灌木地の消火

ナトリウム、カルシウムの硼酸塩

を飛行機から投下することが、森林火災の消火に重要視されて、現在カリフォルニアで行われている。

一機に一二〇ガロン以上を積載した飛行機が大火災の飛火や灌木、草地火災の延焼を防ぐのに効果がある。これまでの研究で空中よりの散布には次のことがわかつていた。

(1) 人間、器材、建物へ危険があるため、弾丸のような飛道具や落下容器等を使えなかつた。とくに人の多

い所や地上消防隊に近い所ではなおさらであつた。

(2) 飛行機には相当予備がいる。

(3) 操縦者は地形の悪い所で低空で飛行し、安全に正確に爆撃しなければならぬ。

(4) 投下された水は地上に達して、消火に重大な効果をもつ。

結 果

小型機から水や消火剤の水溶液を散布するとき、草地や灌木の火災や大火災の一部では非常な効果があつた。地上に薬剤を最大限に集中さすには、航空機はできるだけ低速で、低空で、風上に飛行するのがよい。

放水が早い程、集中は大きくなる。逆に高度と速度を増し、横風のほど拡散は大きくなるので、集中性は失われる。

散布用の飛行機は整備は十分にせねばならない。また操縦者は山岳地の飛行になれ、低空散布に経験をつまねばならない。また大量放水時の機体の急上昇に十分注意しなければならぬ。低空の放水で尾部を下げ

て飛行してはならない。航空機による薬剤散布は地上の消防隊の活動と相まつて非常な効果をもつものである。(完)

(筆者は農林省林業試験場北海道支場防災研究室長)

注 以上は主として次の文献によつた

- Wallace L. Fons;
Wet Water for Forest Fire
Suppression California forest
and Range Experiment Station
June 1950.
- Joseph B. Ely; Arthur W. Jensen
Air Delivery of Water helps
control Brush and Grass Fires.
California Forest and Range
Experiment Station October
1955.
- Harry R. Miller
Chemical Fire Retardants for
Wild Land Fire Control.
California Forest and Range
Experiment Station April
1956.
- Harry R. Miller, Carl C. Wilson
A Chemical Fire Retardant
California Forest and Range
Experiment Station
March 1957.
- T. R. Traux
Use of chemicals in forest
fire control Forest Products
Laboratory 1938.

まがぬ種は生えぬ



島田美代子・作

二等
一席

1

1 タイトルバック

小都市の四ツ辻のバス停の標識に初冬の午後の日が遊んでいる。停留所の前はどこにでもある活気のなさそうな古びた町工場の門である。バスが来て降り客を降ろし新しく乗せて走り去ってしまう。降りた中の一人、やゝくたびれた背広に古びた鞆を下げた五十才位の保険勧誘員が、立ち止りあたりを見回す。この角の工場の前のバス通路の向うには、二戸背合わせに建てられた規格通りの公営住宅が五十戸程キレイに並び、各々の庭を各自の好みに板塀や生垣やらで構い楽しいな城を造っている。火災保険勧誘員がやがて工場にそつて歩き出す。と何所かで「火事や」という声が聞え通行人がビクリとなり、メインタイトルが終り…。

2 八百常の店先

工場の先の小路を隔てて二階建長屋が続きその端の八百屋を通行人がのぞき込み隣りの家の、河内松造(67)も白髪頭を振りたて、マジメくさつた顔でキツと店の奥を見る。集つた五、六人口々にわめき八百常の奥へ押し入ろうとする。

A 「どこや!」

B 「火事はどこや!」

C 「どこ燃えてまんねん!」

二階から妻の雪江(38)転がるように血相変えて降りて来て

「火事や、火事や!」

A 「どこだんねん!」

雪江「隣り!」

A、B、C 「ええ?」

D 「ここやないのか!」

雪江下駄を採すがうまく履けないうでそのまま外へ飛び出しながら雪江「美佐ちゃん、美佐ちゃん!」他の連中もそれに続き走り出る。

3 野田善一の店

八百常の一軒おいて隣り、パンに焼いもにたこ焼、それに子供相手の駄菓子や並べた店先で時子(38)が焼芋を切つた新聞に包んでいる。美佐子(22)がぼんやり八百常の方を見る。

美佐子「(焼芋を受取りながら)何やろ?八百常さんどこ…。又ケンカ?」

時子「あそこは派手にやらはるね!」

あ?何や…。火事!」

美佐子「え?!」

と雪江が上ずつた声で呼び立てながら店から走り出て、隣りの

美佐子に気付かず間の家の表戸に当りまわして飛び込んで行く。

美佐子「(ハッと焼芋を抱き)うちいどないしよ……」

時子「えつ? 何やて!」

4 美佐子の家

八百常と野田との間で河内松造の古びた表札に並んで山田稔と書いた紙きれが貼つてある。元、商売をしていたらしく店の土間が広く表戸のガラスはのりを塗つてある。

雪江「美佐ちゃん! 何してんねん、おれへんのか、鍋燃えたるで……」

…(かまわず店の間から二階へ駆け上つて行く)」

奥の間の障子が開いて松造の妻(66)が弱々しい顔を出しオロオロ見る。雪江について来た四、五人の男女と先の保険屋も鞆を脇にしつかり抱えこみ、うろうろ見廻しているが、雪江が上つた後から我勝ちに上つて行く。時子が美佐子を引張つて駆けこむ。

美佐子「どないしよ、うち、油が……油を」

時子「しつかりしい!」

美佐子まだ焼芋をしつかり抱えているのを見て時子、ひつたくるように取り上げボンと放り出し引つ張り上げる。

5 二階(美佐子らの借りている部屋物干にコンロや鍋釜等炊事道具が極く最少限度にありガスコンロの上の天ぶら鍋の油に火が入り、傍に沸きこぼれた油も燃えている。雪江あわててそのまま鍋をおろそうとするのを保険屋が驚いて引き取る。皆口々に叫ぶ。

A 「み、水や!」
B 「油やろ、水あかんで!」
C 「砂や砂や!」
D 「菜つ葉あれへん?」
「お塩は?」

それぞれ見回すが天ぶら材料のいわし、えび、グリーンピースが少量目につく丈、保険屋が奥の間から座布団を持つて来るとスッポリ鍋に被せてガスの火を止める。他の者もそれに習い座布団や箒やらで附近にこぼれて燃えているのを叩き消す。

(F、O)
八百常の店(その翌日)
三人程の客が居てよくしやべつ

ている。

雪江「ほーらびつくりしましたナ、わたしがあんた、洗濯もん取りに行つて物干に上つてヒョイと隣り見たら燃えてまんねんがナ、火事や言うても美佐ちゃんの影見えへんし、ああえらい事になると思うてなあ、(計つた玉ねぎを紙袋に入れて客のAに渡し)へ、おおきに二十五円です。へーびつくりしましたわはいおおきに(金を受取り、Bの差出すキヤベツを計る)あの子はこれで二度目、前はアイロンの火の消し忘れ、畳がボソツと穴開きましてん(キヤベツを渡し)十八円です」

客C「そんなそそつかしい人隣りにいると、心配ね(ほうれん草と人參の束を取る)」
雪江「若いさかいと思うけど、もうちつと氣イ付けて貰わな、なあ、ハタが迷惑だつさかい。油掛けといつて焼芋買ひに行つてしやべりこんでんねやもん」

客B「焼いも?」
客C「そうそうあの人お腹大きいのね。だからお腹空くんのだわ」
雪江「それでもな、何も天ぶら揚げ

もつてまで食べんならんこともおまへんがナ」
客A「(笑いながら)ほんまやわ、若夫婦で用もなし、のんきなのはええけど二階で炊事はよつほど氣イ付けて落つていては呉れはらんとねー!」

客B「八百常さんのおかげで大事にならんでよろしおましたなあ」
雪江「へえ、お陰で(と嬉しい顔)」
表から幸子(3)、達男(16)が駆けこんで来て

達男「お母ちゃんお金おくれ」
幸子「たこ焼買うねん」
達男「パン買うねん」
雪江「お金ばかりよう使つて! (不承不承錢箱から十円玉二つ出して二人に渡す)」

二人の子供喜び勇んで駆け出す。客それぞれ買物籠を満たして金を払い帰つて行く。

客A、B、C「さよなら、お邪魔さん」
雪江「おおきに、毎度おおきに」と見送り忙がしげにリングをふく。そこへ例の保険勧誘員、店先に立ち笑顔になり

勧誘員「今日わ、御邪魔します。昨日はどうも!」

雪江「(愛想よく振りかえり) ああ 昨日のお人、あんたはなんも昨日はほんまに御世話になりました」

勧誘員「いやあ、奥さんが早よ知らして呉れはつたお陰です。まあお互に御苦労でした」

雪江「おおきに」

勧誘員「時にな、奥さん、私は保険会社のもんでんねのやが(名刺を出して渡す)」

雪江「え?(相手の顔を大きな目で見まわす)」

勧誘員「お宅さんも一つ、火災保険どないでつしやろ、(小腰をかめる)」

奥の間から赤ん坊の泣き声

雪江「へ、まああちよつと待つとくれやす」

勧誘員「ああ、えらい邪魔しまんなー」

雪江の声「まあ掛けとくれやす」

勧誘員「おおきに(そのまま立つている)」

見廻すと店には、野菜は勿論、果物、罐詰、みそに漬物調味料と処狭しと積み上げ並べたてである。

雪江赤ん坊を抱いて出て来る。

雪江「待たしましたな(坐り赤ん坊に乳首を含ませ) 失礼しまつさ」

勧誘員「どぞどうぞ、よう肥えた可愛らしい赤ちゃんだな」

雪江「いいえ、上に四人もあつてもう要らん思てんのに、まだ出来ましてな」

勧誘員「いやあ、子は宝言うてな、結構な事だす。(鞆を開けて書類を出しながら) 保険の方ないですやろ、ここに詳しい書いてもんがありますが」

雪江「そうだな、わたし今見せて貰たかて……うちも今いやしまへんし……」

勧誘員「御主人は御留守で……」

雪江「へえ、車に荷積んでそこらの住宅廻つてまんねん」

勧誘員「はあ、さよで、そら御精が出まんな」

雪江「貧乏子沢山で、なんぼ働いても追いつきまへん」

勧誘員「いやあ御冗談を、ほんならこれ置かしといてもらいますさかい、御主人と又御相談してみとくれやす。特にお宅は隣りが工場、失礼ですが、家が一戸建やおまへんし、もしも昨日みた

いな事があつて火の手が上つたらもうあきまへんのすさかいー だないですやろ」

新たな客が入つて来て雪江赤ん坊を抱いたまま立つ

勧誘員「お邪魔しました。よろしいお願ひします」

雪子「へえ、主人とも相談して考えときまつさ(客へ) いらつしやい。毎度おおきに」

7 野田の店

時子が子供にそれぞれの菓子を渡し、たこ焼を焼いている。美佐子相変らずこの店で話しながらたこ焼を食べている。

時子「あなた、お腹の子どないもない? 昨日あんな、びつくりして……」

美佐子「いいや、どうもないわ、元氣にお腹叩きよる。」

時子「(笑いなながら) ほんならええけど……あなた産着なんかどうしてんの?」

美佐子「まだやわ、その中こしらえられるやろ……」

時子「もうぼつぼつ掛らな、しんどいで(フツと聞き耳を立て) 美佐ちゃん河内つあんどこ誰かお

客さん?」

美佐子「そう」

と出て来て店の前からのぞく

松造の声「子が出来るちゆうのに、産着こしらえる金もないような夫婦だす。保険どころやおまへんやろ……」

美佐子肩をすくめてペロを出す。

8 河内松造の店の庭

店の上り縁に保険勧誘員が腰を掛けて松造の繰り言めいた話を所

在なげに聞いている。

松造「うちもな二階貸すのはいやでずつと断つて来ましてん、一人息子が死んで孫がなかつて嫁は帰んでまうし、体の弱い婆さんと二人きりやけど、恩給が貰えるもんやさかい、果物の店もやめてどうやら食えまんねん」

勧誘員「(仕方なく) おばあさんは病気で」

松造「いやあ、元々寝たり起きたりやけど、昨日のあの駆ぎで腰抜かして寝とります」

勧誘員「ほう、それは、それは……あの時に、おじいさん、先刻も申上げましたけど、どないですやろ、火災保険は……」

松造「ふん保険な、わしとこは年寄り二人やつと食て一杯や恩給や言うたかて、知れてま、」

勸誘員「そうでつしやろけど、無理にとは言えまへんけど、御近所が御近所や思いますのんで……」

松造「ふん、そら判つてま、そないなつたらもう仕様ない、嫌いな

養老院へも諦めて行きまんが」

勸誘員「へえーさよでーほんなら御二階さんどうでつしやろ……」

松造「二階だつたか、あれはな遠縁の者で、田舎から大阪へ来て働いとつたんやけど、嫁貰いよつて

家が見つかるまでと言うて貸しましてん。あんなのんきな夫婦知りまへん。焼いもやすしやうどんやて店屋もう食うたり活動行つたりする金はあつても、風邪引いた腹痛やの言うて、医者や薬代や言うたら、わしに貸せ

言うような奴だつて、しようむない奴等や、家探してんねん言うたかて今日ただではいかん

時世や、権利金や敷金やてまどまつた金も要るちゆうのにーわし等の死ぬのん待つとるんや

ろ……」

野田の店先

隣りをのぞいていた美佐子ケロリとして

美佐子「何言うてんの、ま、のんびり行きまつさ、あわてて見たか

て一生は一生、あんまりコセコセしたら早う老ける。フフ……ね、おばちゃん（人を食つた間のびした表情）」

時子「……（かなわんと言つた顔付でアイマイに笑つている）」

美佐子「ええと今夜のおかずは何しとこ？あ、そや、たこ焼であかんかな？」

時子「（呆れて振返り）何言うてんの！無精云うてんと……」

美佐子「たまに殊勝氣出して意氣ごんでやりかけたたら、昨日はあれや、わやや、もうやめとくわ」

時子「あほらし、あ、そうそうあんな火災保険入つとかなあかんで又、やつたら……」

美佐子「フンそれこそあほらし、何時燃えるやどうや判らんもの、そんな判らん先の事気にしてられるかいな、明日は明日の風が吹く言うて、そんなお金あつたら映画見にく。」

保険勸誘員店先をのぞく、美佐子今流行のロカビリーを手振り

よろしく口ずさみながら出て行く。勸誘員と時子呆れたように見送る。

10 野田の店の間（夜）

店は表のガラス戸を入れて、たこ焼の道具ももう片付けてあり、時子が子供の服を一心に編んでいる。二階から中学三年の長男進

(15) が降りて来て「お父さんまだ？」

時子「ああ、お前勉強済んだんか、ええ加減に寝なはれや、清子は？」

進「雑誌読んどる」

時子「まだ！早う寝さしなはれ、文字も」

進「あいつはどうに、八時頃から寝とる（表を見て）あ、お父さんや、うわあ又酔うとるぞ、今夜は大トラヤナ」

時子「コレ！早よ寝なはれ！」

と庭に下り菓子箱の安饅頭を四つ出して進に渡し表戸を開け夫善一(40)の酒臭い体を支える。

11 野田の家（朝）

店の間で夫婦に進、清子(12)文子(8)が朝食、子供三人食べ終り自分の茶碗を土間の流しへ。それから二階へ上る。

時子「早うして、遅れんようにー」

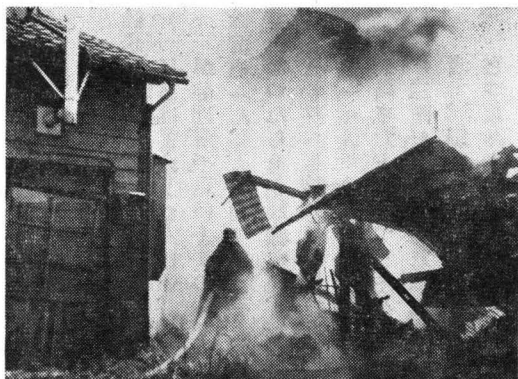
三人「ハイ」

時子「（終りの一口をかきこんで箸箱に箸を入れながら）やつぱり、わたし、火災保険入るか思いますわ、なあ、あんだ」

善一「顔をしかめ煙草の火をつけ（て）あほう、何言うてんねん、俺は保険きらいや、保険と名の付くもんは皆嫌いや。」

時子「（それでも、現に一昨日かて、あれも、もうちつとおそかつたどないなつてたやら判りまへん、戦後安う買い取つて自分の持家とは言うもんの、一戸建やなし、何時どこから火が出んもんでもおまへんで、考えてみたら心細うて、家には何の貯えもないのに、いざと云う時どないしまよ、あんはお酒ばかり呑んで家の事は心配して呉れへんし！」

善一「なに！俺の酒と火事とどう言う関係があんねん？お前は直きそう言う事を云う、いややつた



「こんな店止めてしまえ！ほんならお前も楽になつてちつとはグチも言わんようになるやろ」

時子「何言うてなはんの、こんな店でも止めたら、わたしの体は楽になつても食べて行かれしまへん、何も全然飲むなどは言えしまへん、もうちつと家の事を考えてみとくなはれ、わたしも何もゴテゴテ言うの好きやおまへん：（恨めしげな目がしめる）」

善一「（立ち上り）おう、又会社遅れる。続きは又今晚（と奥の間に行く）」

時子「（見開いた目で見送り）晩？」

今晩帰つとくなはるの？」

善一「そら帰るわいな、俺の家や」

時子「何時になつたら締まつて呉れるんやろ」

洋服ダンスの鏡の前でネクタイを結びながらチラリと善一、膝を片付けている時子の寂しい横顔を見て無然とした顔付、上着を着てポケットに手を入れ、昨夜呑んだ店のマツチを出して見て嘆息、子供等二階から降りて来て二人をうかがい見て学校へ出て行く。

子供三人「行つてまいります」

時子の声「（庭の炊事場から）ハイ、気を付けて」

善一も靴をはく、炊事場の時子の後姿へ「行つて来るぞ」

時子「（振りむかず）お早ようお帰り（セイのない声）」

のれんをよけてチラリとのぞきこみ

善一「まあ今日は土曜日やさかい、店休んで風から子供をつれて映画でも見て来いよ」

時子「……」

あごを襟に埋めるようにして茶碗を洗っているがそれでも仕方

なげに手を拭きながら出て来る。そんなのんきな金がどこにとでも言うように夫の顔をマトモになめるように見る。善一目をそらすとポケットに手を入れ取り出したものを時子の手に握らす。

時子「……？」

善一「昨夕の釣りや」

と照れ気味に薄笑つてクルリと向きを変え急ぎ足に出て行く。時子握らされた手を開いて見るとクシヤクシヤの五百円札と百円札一枚、時子フツと優しい目色になつて店先へ出て夫を見送る。

12 四つ辻

バスが着いて、それに乗ろうと走つて行く善一の後姿

13 バス道路（春の午前）

道が真白に乾き、自動車やオートバイが通るとモウモウと砂煙が上る、あちこちの家で水をまいている。住宅の一軒の庭の殆ど若葉の出揃つたその葉陰に思いがけなく遅れた花がまだ残つていたりする。

14 その公営住宅の一軒
井川信夫の家（遠景）

竹垣をめぐるしてバラをからませてあり、門にもアーチ型にバラの枝を渡してあり、その愛らしい花が咲き始めている。妻の恵美子（25）が散水ホースを台所の方から延ばして来る。井川信夫（31）消防職員が制服制帽で自転車に乗って来る。夫婦は明るくうなづき合い一言二言話しあい恵美子が信夫の自転車と上着と帽子を受取つて入り、信夫がホースを持ち水をまき出す。丁度向いの時子がバケツで水を打っているが挨拶する。

信夫「御苦労さんです。」

時子「よう乾いてかないません。」

スピーカーの声「市民の皆様、今日は空気が大変乾燥しております。その上風が強いですから、どうか火の元に御注意下さい」

その声が段々近ずき消防署の宣伝車が徐行して来る。散水車の信夫、中止して見ているが乗っている消防職員と目顔で挨拶を交わす。

そこへ近所の幼い子供が五、六人バラバラと横丁から出て来て口々に何か言い乍ら消防車を見ている。その中の一人和夫



(4) が信夫を見付け駆け寄る。

和夫「お父ちゃん!もう帰つてたの」

信夫「ああ」

和夫「僕、待つててん、動物園連れていつて」

信夫「うん?あそつか、この前から約束やつたナ(散水の続きをやる)」

和夫「なあ連れてつて」

恵美子出て来て二人を見較べ

る。

恵美子「楽しみにしてたのね。一昨日は雨、その前の非番の日はお

友達とお出掛け」

信夫「……」

まき終えてホースを手繰りながら空模様を見て考え深く返事を洩る。

15 井川家の縁側

ミルクとビスケットに夏みかんがテーブルの上に並び三人が囲んで食べている。

和夫「お父ちゃん、今日もあかんのええ天気やのになあ(不満顔)」

恵美子「(取なし顔に)お父ちゃんのお仕事は、普通の会社やお役所と違うでしょ、火事の起りやすい日は、なんぼ非番の日でも、あんまり遠くへ行けないの、ね解る?」

ラジオの声「(ニュースに続いて)今日は非常に空気が乾燥しております。大阪府、京都府兵庫県南部に異状乾燥注意報が出ております。火の元に十分御注意下さい」

和夫「ラジオもあない言うてる!」
信夫「うん、道がすぐ真白に乾くやろ、暑い位に温いし風も強いし、こんな日は家も物もみんなカラカラにピンピンに乾いててな煙草の火でも消すのを忘れて

るとこんな日には見てる間に他の物に燃え付いてしやうんや、それでみんなで用心せんとあかんのや」

恵美子「そうよ、和夫ちゃんもお友達とマツチを持つて遊んだら駄目なのよ」

信夫「おい和夫、キャッチボールしよう」

和夫「……」

恵美子「さあ、じやお風はハイキングに行つたつもりでお寿司を作りましたよか」

信夫「そうだ庭の花壇を見ながら食べるよええな、さあ、それまで、おい和夫」

和夫「うん」
信夫の後へついて和夫出て行く。

16 角の工場

門を入ると正面が二階建の工場主の相馬義和(49)の居宅があり下の一室は事務所、男と女の事務員が仕事をしており、隅の相馬の机の前に工員らしい三人が立っている。何となく不穏な空気、二面が窓で中の動きが外からよく見える。

門を入つて表道路にそつた塀隙

に、材料の木材置場、乾燥さす為に隙をあけて組み積み上げてあり、その奥のスレート葺の一棟は奥が製品置場、手前が鋸屑や木屑の置場、この棟とは「型に八百常の横の小路に接して同じくスレート葺の一棟が仕事場

17 工場の中

誰も仕事をしていない。二十才前後の若い工員が五人、機械や台の下や木屑の中にうづくまるもの、床に寝ころぶ者、煙草を喫う者もいる。変に活気のない目付で時々事務室をうかがう。柱や壁に、火の用心々々禁煙々々整理整頓々の貼紙、どこかでサイレンが鳴り、

工員A「あ、もう風か、帰ろう、飯食てこうと(腰を上げ伸びをする。)」

工員B「今日も又さいら一匹か」

工員C「此頃は食い物も悪なつたなあー」

工員B「辛え、辛え、住込みは辛えや、か」

と伴淳の真似

工員D「つれえ、つれえか、ちと

らも辛えや、やつぱり今日も金

は出んらしい」

工員E「ああ腹べこや、金の顔みるまでは働かんぞオ（吸つていた煙草をボンと棄て）」

工員D「（腰を床につけたまま片足を伸ばし煙草の火を消し潰し）ストライキか」

工員E「こんなボロ工場燃えやがれ！」

指を鳴らして外へ出て行く、D肩をすくめてみせ、ゆつくり立ち上る。その頭上の柱に火の用心の貼紙

18 事務所の前

三十代四十代の工員三人おこつたような顔で出て来る。工場から出て来た者と向きあい首を振る。

A「やつぱりあきまへんかあ」
F「あかん、なんぼ粘つても、工場ももうしまいやなあ」

G「ふーん、今日入る予定の金が入らんのや、（皆の顔を見回し）そいでなあ、二十日頃まで待つて呉れ言う事や、それも、材料代の払いここ幾月も貯めてるのんで、全部は貰えんらしいねん」

C「うちの品物売れまへんか」
B「どことも不景気や言うで」
H「此頃はな、ポリエチレンとか

何たら言うて水色や赤や青で、色の美しくて丈夫なもんが安う出て来て、わしらとこの木の製品は押されるんや」

D「二十日過か、うわー辛い！又母親におこられる。」

A「小遣せびるんやろ？」
D「そやがな、仕様あるかい、お前もやろ」

G「ああ、勿論！」
A「お前らはええわい、嚙るスネがあるさかいのう、わしら世帯持はどもならんぞ、子供は平気で銭呉れ言いよつてー」

F「まあ風や、麦めしなと食て来るわ」
五人事務所の奥の食堂へ行き、二人は自転車を出しに行き、後三人がそのまま門を出て行く。

一番後からノロノロ不服らしく煙草くわえて歩いていった十七、八のA、ブツと吐き棄てるとそのまま、考え事を振り捨てるとように頭を振りながら、門を駆け出して行く。風が門から吹きこみ吸殻が転がり材木置場の下の木屑の中に入る。自転車で乗つたDとH吸殻が転つたのに気付かず門を出て行く。

19 井川家

染しげに縁側で親子三人風食の最中、庭の middle にブランコがあつて桐の若木が植えられ、花壇にチユリーツブ、三色すみれ、桜草が美しい。盛な食欲……

20 雑貨屋の店先

主人内藤清次(51)がせつせと店先の商品のホコリを払つていゝ。風時なので通行人も少いが男は上衣をぬぎ、女も短袖のセーター等で軽装である。主人、店の奥にひつこむ、奥からラジオとミンの音が聞える。

21 野田の店

店の間の上り口に腰かけた美佐子、編みさしの白い毛糸のベビー服を傍に、拵げて見ながら、焼芋とたこ焼を交互に口に頬張る。美佐子の腹ひどく突出している。

美佐子「やあ、可愛いわ、我乍ら気に入つた」

時子の声「（奥で食事中らしい）今日中に出来上るね。そうしてやつて見ると楽しみなんでしょ（時子の手が出て）あんたお茶欲しいでしょ」

美佐子「ああおおきに、ほんまにこう形になつて来ると嬉しいもん

火災記録 (国家消防本部調べ)

昭和三十一年中

全焼五〇戸以上の火災

出火月日 出火場所 全焼戸数

一月七日 長野県下県郡巖原町 七八戸

一〇三〇 江東区大島町 五七戸

二〇七〇 埼玉県秩父郡吉田町 一一二戸

二〇六〇 静岡市 一九三戸

三〇三〇 茨城県東茨城郡常北町 九六戸

〃 愛知県北設楽郡津具村 六二戸

〃 静岡県小笠郡大浜町 六七戸

四〇二〇 新潟県西蒲原郡分水町 三四二戸

〃 京都府加佐郡舟枚町 五四戸

〃 八〇 北海道上磯郡木古内町 一六七戸

〃 九〇 宮城県名取郡名取町 五九戸

〃 四〇 福島県内郷市宮町 五五戸

〃 〃 新潟県柏崎市宮川 二二二戸

五〇九〇 北海道上川郡下川町 二四〇戸

五〇三〇 栃木県塩谷郡塩原町 六一戸

八〇三〇 新潟県岩船郡朝日村 九八戸

十〇六〇 青森県北津軽郡小泊村 五四戸

やな、案外やわ」

時子出て来て焼芋やたこ焼の焼工合を調べる。最近置いたアイスクリームの容器が真新しく、そののぼりがハタハタ風に激しく打たれている。

と表がざわざわする気配

火事や々と何処かで叫ぶ声が風に乗つてかすかに聞える。

二人ハツとする。時子飛び出して外を見る。

工場の建物からムクムク煙が出て南風にあふられ八百常の店まで煙に包まれ、その煙の向う側にチラチラ赤い焰の舌が見える。通行人が叫びながら駆ける。パチパチ音がしたと思うと塀の内からメラツと大きな火の足がはう。

時子「(ビクリツとして、しがみつくと美佐子を押しやり)しつかりしー!家あんばいしといで!」美佐子フラフラと自分の家に帰り時子も駆け入る。

22 井川家

楽しい風食が終つたらしく夏みかんを食べているが、信夫何か外の異様な気配にハツと立ち上り外をのぞく。

信夫「あ!火事だ!」

と反動的にベルトを締め直し妻を見る。

恵美子「(のぞいて)あら、工場が(顔色を変えるが直ぐ)あんだ、早う!」

と部屋に飛び入り押入れから素早く消防の作業着と帽子手袋を出す。信夫手早く着ける間に玄関に走る恵美子、長靴を出す。

走り出て来る信夫

「後、頼む!」

恵美子「はい、気をつけてね!」

目を見開いて恵美子にまつわり付く和夫をしつかり抱くようにして信夫を見送つているが、我に返つて奥に入り忙がしくタン

23 バス停

道路には人通り少くホコリツぽくムツと暑い日ざし、工場の塀の内側から煙が少し出ている。バスが来て降り二人降りるがその煙には気付かない。

24 材木置場

積み上げた材料板の隙間から煙が無気味にふき出している。

25 食堂

事務室の奥にあり住込の者は井

飯にやはりさんまの焼いた一皿を

通勤の者は弁当を食べている。ラジオがやはり火の用心を告げて後々お風の演芸会に移る。音声がなり高い。食事が済んでも皆笑い乍ら聞いていて動かない。

26 材木置場

煙の出方活潑になり下の方ではもう火の舌がチロチロしている。燃えている木屑が風に吹かれて吸い寄せられるように、奥の倉庫に使っている中へ飛びこむのもある。丁度七輪をあふぐのと同じで門から吹き入つた風があふり立てるので、隙間をつくつて組むように積上げた材木でよく乾いているので、案外た易く燃えたち、見る

見の中に煙と共に火の粉も盛に飛び出して、異様な物音もする。

27 事務所

電話が鳴っている。誰も中々食堂から出て来ない。奥の食堂より万才が聞える。又一しきり何度目かの電話のベルが長々と鳴り、やつと出て来た女事務員、受話器を取上げるがふと窓の外を見てびっくりして取落す。

「うわあ、火事や!」

28 燃える材料置場

消火器を持つて走つて来て水を出そうとするが使い方を知らない。頭部を引つぱつたり押ししたりするがホースからは何も出ない。

井川消防士が門から駆け入つて来て、一人を押し飛ばして自分が消火器を取ると倒さにする勢よく噴出す。他の二人も真似るが一本はどうしても出ない。

信夫「署へ電話を!」

もう一たん燃える勢力のついたところなので消火器を使つても、バケツリレーしてみたところで、焼石に水その間にも飛火して倉庫や工場も燃え出す。信夫一人で走りまわり何かと指揮する様子だが人力ではもうとても手の施す術もない。徒らに駆けまわるばかり

29 八百常の奥の間

店の間には風の膳ごしらえが出来てガスの茶が沸き返っている。奥の間で雪江が赤ん坊を寝せつけていて自分もとうとう、フツと目を覚まし表の異様な物音、臭気に飛び起きる。縁側で子供が遊んでいる。

表の声「火事や!」

赤ん坊泣き出す。子供がハツと

振返る。

工場の周囲

消防車が着いて配置に付き、手早く準備が進められて行くが火の勢は早い。もう八百常の店先は煙に包まれ二階も下も軒を火がはい、折からの強い風にあふられてその火足はぐんぐん延びる。

31 八百常の店

煙に包まれた店の奥から赤ん坊を負つた雪江が必死に二人の子をかばいながら走り出て来る。そこへ主人(45)が血相変えて戻つて来て四人抱き合う。そして一度主人が店に飛びこみ錢箱を提げて来る。(以下次号に続く)

予防時報 第三十五号

昭和三十三年十月一日発行

【非売品】

年四回(一・四・七・十月)発行

東京都千代田区神田淡路町二ノ九

発行所 日本損害保険協会

電話神田 (25)〇〇四(代)
(五八)二(代)

東京都中央区湊町一ノ三

印刷所 株式会社 大成美術印刷所

日本損害保険協会災害予防部刊行物

(実費配布・送料不要)

「学 校」		実費
業態別工場防火資料		
各号共一部 一〇〇円		
(1)	製粉工場の火災危険と対策	一七〇円
(2)	油脂製造工場	五〇円
(3)	セルロイド加工工場	五〇円
(4)	印刷工場	八〇円
(5)	自動車整備工場	五〇円
(6)	ベニヤ板工場	六〇円
(7)	電球工場	九〇円
(8)	営業倉庫	五〇円
(9)	石鹼工場の火災危険と対策	六〇円
(10)	製菓工場	九〇円
(11)	菓子工場	無料
(12)	電線工場	一八円
(13)	アルコール及び合成酒工場	無料
(14)	印刷インキ工場	無料
(15)	電気通信機工場	無料
(16)	製紙工場	無料
(17)	塗料工場	無料
(18)	ゴム工場	無料
(19)	羊毛紡績及び毛織物工場	無料
(20)	乾電池工場	無料
(21)	紙袋工場	無料
(22)	織物染色整理工場	無料
(23)	エーテル工場及び	無料
(24)	アルコール工場	無料
(25)	アスファルト工場	無料
(26)	皮革工場	無料
(27)	硝子製品工場	無料
(28)	鉛筆工場	無料
(29)	ドライクリーニング工場	無料
(30)	製綿工場	無料
(31)	紙器工場	無料
(32)	精麦工場	無料
(33)	紡績工場	無料
(34)	化粧品工場	無料
(35)	精糖工場	無料
(36)	家庭電気器具工場	無料

注「防火検査便覧」「職業危険ハンドブック」以外のものは少数数の申込には無償で提供することがあります。

初田式消火器



国家消防本部検定合格
損害保険料率算定会認定

初田式水槽ポンプ消火器 初田式二重瓶消火器
初田式泡沫消火器 初田式四塩化消火器

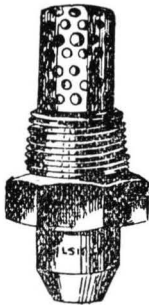
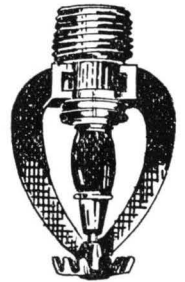
製造元 株式会社 **初田製作所**

本社 大阪市北区神明町七番地
東京営業所 東京都中央区江戸橋三ノ一
名古屋出張所 名古屋市中区南大津通六ノ二
九州出張所 福岡市上洲崎町二十四番地
北海道出張所 札幌市南一条西九丁目十一番地



"GRINNELL"

FIRE PROTECTION INSTALLATIONS



Automatic Sprinkler and Fire Alarm System

The Mulsifyre System for the Protection of
oil-filled Electrical Equipment

The protecto Spray System

— 英国 **Mather & Platt** 代表 —

日本グリーンネルスプリンクラー-K.K

本社・工場 神戸市東灘区本山町中野琴田筋 35 TEL. 神戸 (8) 6040



Don't gamble with fire—
the odds are against you!

石油施設消火装置

設計・製作・施工

フカダ式空気泡消火装置
Air - Foam System

フカダ式噴霧消火装置
Fog System

其他特殊消火器設計製作

米國NFPA及NSC會員

深田工業株式會社

東京都港区本芝四ノ一六（都電三田車庫前） 電三田（45）3902~3

專 売 特 許

完全密閉蓄圧式消火器

特殊精製四塩化炭素
超強力消火剤使用

バルブレス

（車輛船舶用 1/4・3/8 gal……一般用 3/4、1 gal入）

金大消火銃

（放射管・特殊背負バンド付）

（1 gal・1.5gal入）

国家消防本部検定合格
損害保険料率算定会認定
運輸省車輛用・船舶型式承認品

消火器専門メーカー

ゴールデンエンゼル株式会社

本 社 東京都中央区銀座東六の七 電話東京(54)7379, 4611~4639
北海道出張所 札幌市南一条西十四丁目一番地 電話札幌 0728
工 場 東京都杉並区八成町十五番地 電話東京(39)2082

